

な～に谷っ戸ん田

2011年度 活動記録

<http://www.yattonda.com>

第1回 『水路整備、竹林整備』

と き：2011年4月2日（土） 9:30 - 17:00

ところ：谷っ戸ん田、竹林

天 気：晴

参加者：総勢 大人 31名、子供 5名

[谷っ戸ん田] 大人 19名、子ども2名 + 園主

石田、磯、オズ、加藤、霧生、久保、佐々木美紗ママ母子、チャリママ佐々木母子、坂本、柴田、高田夫妻、高橋、松下（午前）、松本洋子、吉田、野地、福富、藤田、園主

[恩田の谷戸ファンクラブ] 大人 9名

石田（谷っ戸ん田兼）、稲垣、岩波、加藤、須藤、樋口、福富（谷っ戸ん田兼）、藤田（谷っ戸ん田兼）、三浦

[ゲスト] 大人 5名、子供 3名

(1) グリーンのグループホームの職員：上田、他3名（大人4名）

(2) グリーンの元職員：梅下母子（大人1名、子ども3名）

●午前

園主指導のもと、谷っ戸ん田奥の水路をファンクラブと共同で整備するのが本日の目的。

園主から本日の作業段取り説明。（松本さん要請）

- ・ 水路上流部の拡幅と、全域の泥さらい。
- ・ 矢板と杭を新しくする。
- ・ 水路から取り出した泥は、田んぼに均等にまく。
- ・ ポンプで水抜きをし、作業中は水路に水が入らないようにホースで迂回させる。

作業用具は、谷っ戸ん田からスコップ 10本、鍬 4本、ネコ車 3台、バケツ(オイル缶) 3コ。ファンクラブからスコップ、まんのう等。園主がショベルカーを運転。

杭と矢板は、もともと確保してあった分だけでは足りず追加購入。

- ・ 確保してあった資材 杭(短) 24、杭(長) 12、矢板 33
- ・ 新規購入資材 杭(長) 50、矢板 50

新規購入資材は荏田の高橋製材所に注文。軽トラで取りに行ったが1回では運べず2往復。購入資金はファンクラブが負担(水路整備はファンクラブが本来の管轄である)。50本、50枚で36,465円(杭24,900円、矢板11,565円)だったとのこと。

作業開始早々、谷っ戸ん田班、ファンクラブ班の作業分担を巡って軽い混乱があったが、ショベルカーが登場し泥がどんどんかき出され始めると収束。いつも思うが機械のパワーは凄いのだ。機械がない時代に灌漑事業とかやりきってしまった昔の人ってどんだけ逞しかったのかと。

10:30過ぎに一度休憩。ファンクラブからバナナの差し入れ。優ちゃんからも飴をいただきました。休憩中にゲストの若い衆(グループホームの職員が合流。約2倍量の泥をネコに載せて運搬する姿に若さって逞しいなど。もう君らで全部やってと思う。

杭が倒れるのを防ぐため、水路をはさんで杭と杭の間につっかえ棒を入れた。つっかえ棒は近くの木の枝をチェーンソーで切って作った。杭は、つっかえ棒を入れ易いように対面の杭同士が並ぶように打つこと(互い違いには打たない)。

水路を削ると沢蟹がほじくり出される。冬眠明けまでにはもう少し間があったはず。迷惑だったでしょう。子供達は大喜びでした。

●お昼

久々のハンモックランチはほうれん草玄米カレー。うららかな春の日差しに揺れるハンモックと子供の声。



●午後

水路整備作業を継続実施。15:00 ごろ休憩。美紗ちゃんからビスコをいただきました。

有志が竹林整備に向かう。参加者は、久保、松本、佐々木美紗母、梅下母、高橋の5人。竹林内の倒竹の片付け。筍の収穫は1本。使用した道具は、のこぎり1(久保さん所有)と唐鍬1(園主所有)。

16:00 頃作業終了。作業未完了のため明日もファンクラブが継続。スコップ、鍬、ネコ車を水洗い。

(石田さんコメント)

ユンボで水路を深く広くしたので、補修に留まらない改修ができた。泥ためができたし、泥で半分隠れていたマスの穴は全部見える状態に。残りの下流部分は改修せずポチポチ補修すればいいし、泥さらいは様子を見ながら秋に行えばいい。すご〜く、いい状態。

(記録：磯 直行)



作業が終わり、菜の花の向こうに陽が沈んでいった。

第2回 『畦塗り機見学、作業計画確認、脱芒、筍取り』

と き 2011年4月9日（土） 9:30 - 16:00

ところ 谷っ戸ん田、谷っ戸ん田小屋

天 気 雨 ときどき 曇り

参加者 石田、磯、梅下早苗・日菜子・浩太郎・裕二郎、久保、佐々木利江、松本夫妻（午前）、松本（午前）、園主 計12名（子供3名含む）

●午前

雨模様のため、みんなの集り悪し。谷っ戸ん田水路にて整備状況を確認していたところ、テツさんがなんか凄い機械とともに参上。「畦塗り機」というらしい。トラクター後に連結し耕耘機の要領で畦を作っていく。みるみるうちに出来上がっていく畦。農業用機械って凄いです。

水路横と田んぼ下面の畦はこれで完了してしまいました。4辺のうち2辺が終り、2辺が残っています。

10:30ごろ、小屋に移動。

来週以降の作業、特に米作りに関する作業の確認をしました。

もち米の育苗についていろいろと議論しましたが、今年分のもち米苗についてはテツさんが種籾（満月）の入手を手配して下さっており、うるち米同様に消毒、芽出しまでを考えてくれていることがわかり、例年通りの段取りで（田植えまではテツさんに依存するかたちで）実施することとなりました。

米班は、来年度に向けて育苗、特に保温折衷苗代の勉強に取り組んでいきます。具体的には、この苗代で米作りをしてらっしゃる林さんのやり方の見学をさせていただこうと思っております。

●お昼

各自、テキトーにお昼を調達。小屋で食べました。和久さんがハチミツを持ってきてくれました。松本さん、松下さんが離脱。

●午後

テツさんから、種籾の野毛をとる作業を手伝ってくれと言われ喜んでお手伝い。野毛とは、種籾の先にちよろんと付いているヒゲのことで、芒（ぼう）ともいうらしい。野毛がついたままの籾は、種まき機にひっかかって効率が落ちるためこれを切るわけです。

野毛とりには、脱芒機という機械を使う。上から種籾を入れ、機械を通過させると野毛の取れた籾が下から出てくる。その間、適当なタイミングで野毛つき籾を補充し、溜った野毛なし籾を袋に移動する。やることは基本的にこれだけ。スピードはかなりゆっくりで、60Kg分を処理するのに60分ぐらいかかった。

途中、石田さん、久保さん、佐々木さん、梅下3兄弟が竹林にスコップ、クワを持って作業下見。残念ながら収穫はありませんでした。

野毛とり作業完了後、機械の片付け。掃除をしていたところに、テツさんがトラクターを持って登場。故障して動かなくなっていたトラクターを譲り受けたとのこと。洗車の手伝いをしました。

16:00ごろ、解散としました。

（記録：磯 直行）



雨のな～に谷っ戸ん田。前週の補修工事を確認。雨と風に揺れる菜の花。



新兵器登場 『畦塗り機』。谷っ戸ん田の2辺の畦をあっという間に塗ってしまった。唖然…。



脱芒機で野毛を取る。雨の中、3兄弟は谷っ戸ん田によく来てくれました。

第3回 『田起こし、たくあん分配、タケノコ掘り』

と き 2011年4月16日(土) 9:30 - 17:00

ところ 谷っ戸ん田、小屋、竹林

天 気 晴

参加者 石田、磯、梅下早苗・日菜子・浩太郎・裕二郎、オズ、霧生、久保、坂本(午前)、
佐々木康志(午後)・利江・優聖、高田夫妻、藤田、松下、松本夫妻 計19名(子供4名含む)
午前中ゲスト：大場妻、子3人

園主コメント：くれぐれも怪我のないように！

● 午前

田んぼリーダー磯さんが、作業を説明。

- ・道具類をてつさんから借りてくる。(一輪車3台、スコップ、カマ、トラクター2台、テラー1台)
- ・これまでコシヒカリエリアと赤米エリアを隔てていた盛り土＝豆畔(マメグロ)を崩し、土を田全体に散らす。
- ・田の中の落ち葉の山を堆肥置場に移動する。
- ・田の中に残っている枝や石を拾う。

11時前、田起こしの前段階＋一部草刈りまで終了。休憩後、加工班を中心としたたくあん分配組が分離。田んぼ班を中心に、機械で田起こしを行う。

【たくあん分配】

樽3つ、たくあん三種を当日の参加12家族に分けて、残りはグリーンへ。樽、漬物石を洗い干しておく。1人あたりの持ち帰り量は10本程度。

● ランチ 各自コンビニなど。磯さん＋数名、田周囲でセリ摘み。八百屋で買うのと野のセリはまったく味が違う。おひたし絶品。(by 磯さん)

● 午後

【田起こし】

田起こしの意義について石田リーダーから解説。

浅く均一に耕うんすることが大切。均一でないと、田植え機でちゃんと植わるところと植わらないところが出る。それは、稲刈りまで影響する。それほどに田起こしは重要である。

谷っ戸ん田の場合は、うまく植わらない場所は手植えすればいいので、深刻に心配することはない。今回使用したトラクターの一番大きい物は、モノローといって自動的に表面を均一にする機能がついているが、他のトラクターとテラーにはついていない。そのため、同じ場所を二度通ると深くなってしまう。深さの目安は10cm＝刃は5cmしか土に入らないことが望ましい。これはとっても難しい。

プロは、なるべく一筆書きで機械をかける。今回、午前中は、機械によって縦に向かってかけたり横に向かってかけたりしていたが、すべての機械を同じ向きにかけるよう、てつさんから指摘あり。午後は、すべて短辺に沿ってかけるようにした(＝小川と小道に直行する向き)。

【タケノコ掘り】

田起こしの意義講座終了後、竹林班と梅下チルドレンを中心とした数名、タケノコ掘りへ。

今週、雨が降らなかったこともあり、収穫は7～8本。切って11家族に分配した。来週に期待！

【畦切り】

全体的に二回耕うんした後、畦切りを行った。小道に沿った辺に対し、棒に紐を結んでまっすぐに張り、その線に沿ってスコップを垂直に入れ、くっきりした畦を作る。畦に近い場所（後日畔つけ（くろつけ）をするであろうエリア）の草は刈る。

ハウス側の辺も、水が漏れる心配はないのだけれども、雑草を防ぐという意図で、畦切りを行った。

干していた漬物関係の道具を片付け、田起こし関係の道具を洗い、17時頃終了。

園主コメント：

- ・その1 ハウス側の畦切りは糸張りしないで行ったところ、「やるなら糸を張って真っ直ぐやるように」とのコメントをいただいた。次回、この部分のやり直しから始めることとする。
- ・その2 トラクター洗浄時、ドロは田んぼに置いてくる、が基本とのこと。次回以降、機械を片付ける時は現地でドロ落としをした上で行うことにしたい。

（記録：オズ）



田んぼとその周りの片付けからスタート。



沢庵の分配作業。



「掘ったばかりのタケノコはいらんかねえ～」



第4回 『種籾播き、野毛取り、タケノコ掘り』

と き 2011年4月23日（土） 9:30 - 17:15

ところ 谷っ戸ん田、小屋前ハウス内、竹林

天 気 雨、時々曇り

参加者 石田、磯、梅下早苗・日菜子・浩太郎・裕二郎、加藤（午後）、霧生、久保、佐々木利江・優聖、柴田（午前）、高田直子、松本夫妻、園主 計16名（子供4名含む）

※ 子どもチームは午後4時上がり

● 午前

大雨の朝、磯さんから「張り切って参りましょう」メールでエンジンを掛ける。

前日の殺菌作業は園主がやってくれており、小屋前のハウスに機械をセットする。

雨天なので、種籾を天日で乾かすことが出来ない。いつもは機械で行う播種作業を手でやる。

土入れ機は、三菱ST-30という少し小振りの機械。

土入れ口の下からかなりの量がこぼれるので、ブルーシート上に機械を設置し作業する必要あり。

トレーの殺菌はしなかった。トレーの上に紙を敷き機械にかける。

トレーの量は、うるち米（コシヒカリ）は、トレー 38枚分。モチ米（満月）は、トレー 11枚分。

トレー1枚あたりの種籾量としては、1.5合～1.6合が目安。

1合升が見付からなかったため（来年度注意）、200Ccの計量カップ 1.5杯量を計測し1枚分とした。

トレーに入れた床土は「クボタ純正春風床土 KN-1U（暖地用） Net20Kg」。

これを覆土としても使った。上記49枚分の分量として、8.5袋分程度を使用した。

なるべく土の平らを保持するために種籾は、ぱらぱらと播くのがよい。

手で種籾を土の上で広げてはいけない。水やりの後、土を被せる。

雨の切れ間をぬって苗箱を下のハウスに移動。

作業前：未開封 15袋、開封済残2/3 4袋、開封済残1/2 2袋あったのが、

作業後：未開封 9袋、開封済残2/3 1袋、開封済残1/2 1袋となっていた

● ランチ 各自コンビニなど。

● 午後

苗箱を苗床上に4枚ずつおいて、黒いビニールではさみ、最後に大きなビニールで被い最後に紐でしばる。

今日の作業は終了。園主に頼まれた野毛取りを機械で行う。

その他、小屋前のハウスのサツマイモ掘りとにんにく畑の雑草取りをする。タケノコ掘りもした。

帰りに園主からお土産に筍とセロリを頂いた（先に帰宅したものを除く）。

※もち米とうるち米は種籾が似ているため、一緒に作業すると混ざってしまうので良くないとのこと。

（記録：佐々木 利江）



ハウスの中での種まき作業。
種籾を天日乾かせないのが、
ちょっと不安。



保存してあったサツマイモを掘ったが、ほとんどがスカ。



ハウス内の雑草取りを
手伝いました。

タケノコ掘りの3回目。
まあまあの収穫でした。



第5回 『くろつけ、荒代かき、里芋・えび芋・スイカ植え付け、竹林整備』

と き 2011年4月30日(土) 9:30 - 20:00

ところ 谷っ戸ん田、畑、竹林

天 気 晴

参加者 磯(午後)、梅下早苗・日菜子・浩太郎・裕次郎、オズ、加藤、霧生、久保、
佐々木利江・優聖、佐々木眞佐子・美紗、柴田、松下、松本夫妻、丸山、園主
計19名(子供5名含む)

● 午前 くろつけ

- ・田んぼの水を出し始める。
 - ・田んぼの四辺、あぜに沿ってくわ・スコップで溝を作り、水がいきわたるようにする。
 - ・ハウス側の一辺については、真っ直ぐにあぜきりしていなかったため、糸を張って再度行う。園主の指示に従い、最も田んぼ側に出っ張っている部分を基準に糸を張り、足りない部分に盛り土をする手法。あぜきりというよりは、あぜ盛り？
 - ・同時進行で園主が大型トラクターで耕うん。
 - ・土手の一箇所から水が漏れるのを発見。慌てて修繕し、くろつけを開始。
- ★くろつけのポイント・・・あぜの水面下に土をつけるのが大事！下の方に、モグラ等の穴があることがある。そこから水が漏れてしまわないようにする。つける土は、乾いた土に水が少量混じった土を足で練って、泥団子が作れるくらいの固さのものを使うこと。やわらかい土はすぐ流れてしまう。

● ランチ 各自コンビニ弁当等。今日の話は、くろつけのこと(自主勉強会の雰囲気)。

● 午後

- ・ほぼ全員で苗箱並べを行った後、三手に分かれて作業。加藤・柴田さんは一足先に畑へ行って準備。

<田んぼ編>

◆苗箱並べ

- ・保温していた苗箱について、芽が出てきたので、日が当たるようハウス内に平面に並べたのち、寒冷紗をかけた。ながい寒冷紗の片側と片側を昨年以前に使ってしまっており、今回からは「どちらか同じ側を使うように」という指摘を園主から。使用しない側は折りたたんで畳紐で縛り、コンパクトな状態に。
- ・もち米4枚(最上部に置いていた)の芽が出ていなかったため、引き続き保温することとし、黒シートをかけ、重しをのせた。半透明シートをかけ、ロープで留めた。黒シートの余った部分は吊るして乾かす。
- ・ここまでに13:40くらい。この後、竹林整備、畑の方に分かれる。
- ・田んぼに残ったのは佐々木優ママ、オズ、子どもたち。午前中に使った道具を洗ったり片付けつつ、田んぼの水張りの様子見および、子どもたちの見守り。

◆荒代かき

- ・16時過ぎくらいから、テツさんが現れて、田んぼの異変に気づく。
- ・園主の解説・・・田起こしの時に、深く田起こしすぎて、耕盤(こうばん)を破壊。耕盤を破壊したことにより、その耕盤下に水が浸水し、田んぼが灌水しない状態。また、田んぼの底面そのものもデコボコで平らになっていないとのことだった。とにかく、早くかき混ぜてしまう必要ありとの話で作業開始。
- ・園主がテラー2台と、トラクターを1台出してくれて、代かき作業。
- ・畑班、竹林班と作業が分かれていたため、メンバーが集まらず、最初は松本洋子、霧生、梅下、丸山、チャリママ佐々木、磯で代かき。全メンバーが集合しながら、交代交代でテラーとトラクターを使う。
- ・テラー1台が動けなくなり、途中カゴ車から、湿田用の車輪(ウルトラマンに出てくるバルタン星人の手みたいな、カニ見たいな車輪)へチェンジ。
- ・ハウス側の田んぼの面になかなか水が浸水せず、作業ががはかどらない。先日整備した奥の堀からテツさんがホースを持ってきて、直接水をかけて浸水させて代かきをする。
- ・とりあえずの荒代かきを終えた。もう辺りは真っ暗で7時20分。
- ・トラクターやテラーの車輪を洗い、洗いきれなかったものは、翌日、松本洋子さんと磯さんが谷っ戸ん田に来て、テラーの洗浄と片づけをした。

<畑編>

■ 1 回目の畑作業—マルチャー張りりと里芋・えび芋・スイカの植付け

【畑の状態】

・畑は奥行き 50m、幅 14mの長方形の形で、すでに大場さんがトラクターで耕うんしてくださっている状態。肥料は入れずに始めることにした。

【当日の用意】

- ・黒マルチ（穴なし）：幅 96cm、長さ 200m。（田奈農協で加藤先生が購入）
- ・マルチャー：1 台。グリーンより借用。（柴田さんがグリーンのトラックで運搬してくださった）
- ・種芋：里芋 90 個（ミヨシで高田さんが購入）、えび芋 30 個（高田ファームよりご寄付）
- ・スイカ苗：小玉（赤こだま）1 本、大玉（縞王）1 本。（梅下さんのご寄付）
- ・他、クワ 1 本、メジャー、支柱数本、穴あけ器。（全てグリーンから借用）

【作業】

①マルチ張り

・道路から向かって右側、縦約 45m×3 列のマルチを張る。一人がマルチャーを使って後向きに進み、もう一人がクワでマルチの端に土をかぶせて補正。

13 時過ぎから柴田・加藤さんで作業。風が強く難航したが、15 時頃にはマルチの張られた畝が完成。

②里芋、えび芋の植付け

- ・40cm 間隔で印がつけられた支柱を使い、もう一本の支柱で株間 40cm 間隔の印をつけていく。
- ・その株間の位置に、穴あけ器を 5~6cm さして種芋を植える穴を掘る。
- ・とがった方を下にして里芋とえび芋を植え、マルチの穴が完全に隠れるくらいに土をかぶせ、少し押しでマルチも安定させる。里芋とえび芋の間には支柱を挿して目印にした。

14 時~15 時。合流した 4 人（梅下、佐々木、丸山、霧生）で作業。1 列と少しで 120 個の植付け完了。

③スイカの植付け

- ・スイカの蔓がのびてもよいよう畑の左端手前から各 1.5m のスペースをあけて 4.5m のマルチを張る。
- ・1.5m の間を空けてスイカの苗を 2 本植え、ペットボトルで雨水を苗にかけて終了。
 - ・途中人数が減り③まで終了したのが 16 時頃。その後、柴田さんと加藤先生はマルチャー等をグリーンへ運んで片付け。畑作業を完了した。

<竹林編>

苗箱並べ終了後、チッパーをテツさんの軽トラに載せて竹林まで搬入。竹林入口付近にチッパーを設置してクボタの方から操作説明・注意を受けて、運転開始。（運転に際しては、ゴーグル・耳栓は必須。竹を挿入する際は入れ口の真後ろには絶対立たないこと。）久保さんと松下さんが専ら挿入係りを担当。松本純さんが挿入準備の雑用を行った。（合間を見て筍掘りも行う）竹林に入ってすぐ左側に積まれた古竹の山を片付け、跡として残った穴の部分に竹チップを埋める作業を行っている最中に田んぼ班より応援要請の連絡が入り、目途をつけて竹林を切り上げた。（17:40 頃）

最後にタケノコの山分けをして終了

（記録：柴田・霧生・松本・オズ）



第6回 『肥料撒き・本代かき・均平』

と き 2011年5月7日(土) 9:30 - 17:00

ところ な～に谷っ戸ん田

天 気 雨

参加者 石田 (PM3:00 中抜け)、梅下早苗・日菜子・浩太郎・裕二郎、オズ (AM)、加藤、霧生、久保、佐々木夫婦・優聖、高田直子、高橋 (PM3:30 来訪)、藤田、松下、松本洋子、園主 (テツさん) 計 18 名 (子供 4 名含む)

午前 肥料散布・代かき

○使用肥料：ロイヤルグアノ水とり有機肥料と中川水稻2号 各3袋

三手に分かれ、中川水稻2号からグアノの順に均等に撒く。肩掛け容器又はビニール袋に入れて撒いた。

○代かき：田んぼの耕盤が崩れてしまい、水が抜けていたので朝4時からテツさんが水を入れておいてくれたとのこと。隣の田んぼは、その分満たされていた。

テラー機3台(大1台、小2台)で始める。大1台は、ハウス側の深い所を重点的に均す。他2台は浅目の所を代かき、それ以外の方はトンボを用いて代かき。

○中休憩：高田さんより岩手の和菓子、梅下さんからカントリーマームの差し入れ。

昼前に水を一時止めて水路側の畦の一部をスコップで壊し排水口を出して水を落とし、田の泥が見えるようにした。

昼食 雨だったので、朝テツさんが用意して下さったテントの下で各自用意したお弁当を食べる。

午後 午前に続き、代かき作業。角材曳きでき均平(ハウス側から一方方向に曳いた)。

均等になったかを、ハウス側の斜面から見て、トンボで均しながら角材で再度、曳いて終了。テラー、かご車、スコップ、トンボを洗い、かご車は、な～に谷っ戸ん田の広場の物置前に置き、他の物は所定の場所に戻した。

※苗：うるち米の三分の二位が使用可、もち米は全滅の様様。

追伸：テツさんが設営してくれたテントを濡れたまま畳んでしまった。干さないとカビが出るということで、高橋・霧生・高田さんが上のハウスまで運び広げて干した。ありがとうございました。



もち米の苗はほぼ全滅



うるち米は2/3が使用可

(記録：松本 洋子)



ロイヤルグアノと中川水稲2号を各3袋を撒く。



雨の中、テラー3台で代かきを開始。



マツタカコンビが、ホースの水漏れを直してくれました。さすが！！
しかし、その直後にタカが転倒。マツ「まずい、写真撮られてる！」



角材を曳いて仕上げの作業。



誰からも完了のサインが出ないので、全員で作業結果を評価。

誰かが言った「いいんじゃないの」に反対する声がなく完了！

第7回 『田植え（コシヒカリ）、竹林整備』

と き 2011年5月14日（土） 9:30 - 16:30

ところ 谷っ戸ん田、畑、竹林

天 気 晴

参加者 石田（午前）、磯、梅下早苗・日菜子・浩太郎・裕次郎、オズ、加藤、霧生、久保、坂本（午前）、佐々木康志・利江（午後）・優聖、高田夫妻、高橋、藤田（午前途中から）、松本夫妻、米田（高橋ゲスト）、園主 計22名（子供4名含む）

● 午前 田植え

・谷っ戸ん田メンバーが種まきした苗は育ちが悪かった。ために、てつさんが作った苗を18枚いただき、それをメインに植えた。谷っ戸ん田メンバーが種まきした苗は補植用。

・二条植えの田植え機を使用。最初だけ一条植えにして様子を見た。その後は二条植え。

★ポイント・・・隣の列のわだちの跡に車輪を乗せるように気をつけること。

・基本、全員が機械植えに挑戦！

・手が空いた人は補植やあぜの草刈り。

・ハウスと反対側1/3をもち米用スペースとして残し、午前中に田植え終了。

・てつさんの苗12枚使用し、5枚は返す。残りの1枚は補植用に田の中に置く。

・谷っ戸ん田の苗1枚使用。朝時点で16枚、ハウスから田に移していたため、残りの15枚はそのまま田の中に置いておく。

<11時台のおやつ> 高田農園のイチゴ！ 一人あたり10粒以上。

● ランチ

・園主からキュウリの差し入れ。高田農園のレタス、スナックエンドウ、サラダ菜その他をいただいた。

● 午後

・二手に分かれて作業。

<田編>

メンバー：磯、オズ、久保、佐々木夫妻、高橋、松本夫妻（田んぼ終了まで）、米田 計9名

・生長が悪い谷っ戸ん田の苗、田に持っていかず、ハウスに残した分は、残念ながら廃棄処分。もち米は、良い部分をかき集めて、1枚分相当を田に置いておくこととする。

・苗箱洗い。今日使った分は田んぼの隣のハウス前で、ハウスの分は上の小屋の水道で、ブラシを使って洗った。

・てつさんから「背が低すぎる苗を植えている箇所は、水を入れると水没してしまうため、背が高い苗を補植するように」と指示があり補植。

・終了後、磯さんを田に残し、竹林に移動。

<竹林編>

メンバー：オズ、久保、佐々木夫妻、高橋、米田 計6名

・タケノコ掘り（成果5本）、倒竹を竹林の中から引き出して、一所にまとめた。

<畑編>

メンバー：梅下早苗、加藤（14:30まで）、霧生（14:10まで）、藤田、高田夫妻 計6名

・堀の内の畑のまわりの草取り。鎌を使用し、畑の周囲の草を取った。だいたい7割ぐらいの仕上がり。残りは次回以降にまわす。

・前々回に植えたサトイモについては、変化見られず。スイカは、しっかりと育っていた。

16時に休憩スペースへ各チーム集合。次回作業を確認し、タケノコを希望者がいただいて16:30解散。

（記録：オズ）



①隊長インダ



②優くんパパ



③ガッツ松本



④田んぼ班長イソ



⑤コンサル高田



⑥新人サナエ



⑦ベテラン霧生



各戸ん田メンバーによる
田植えリレー



⑧飛び入り米田



⑨オレが先生だ



⑩ライダー坂本



⑪田んぼのヨーコ・ヨコハマ...



⑫藤田で〜す



⑫マドンナ高田



⑬カメラ親父クボ



「高橋さんの田植え勇姿を撮れませんでした」
「ツーショットを撮って貰ったからOKです」



筍掘り、畑の草取り
もやりました



第8回 『田んぼの補植、竹林整備、堀の内畑の雑草取り』

と き 2011年5月21日(土) 9:30 - 18:00

ところ 谷っ戸ん田、竹林、堀の内畑

天 気 晴

参加者 石田、磯、久保、坂本、佐々木康志(午前)・利江・優聖、高田直子、高橋、
松本夫妻(15時まで)、松本さんのゲスト佐藤(母子)、園主 計14名(子供2名含む)

- 午 前 竹林組と田んぼ組、二手に分かれて作業。
- ランチ 各自。高田農園のイチゴと佐藤さんよりラスクの差し入れあり。
- 午 後 竹林組と畑組、二手に分かれて作業。

<田編>メンバー：磯、坂本、高田、佐々木夫妻、優、松本洋子、佐藤母子 計9名

1. 機械植えで曲がった隙間や抜けている箇所にも補植する。休息後、田の周りの草取りをする。田の周りの雑草はハウス下を中心に実施。蓀と菜の花は残した。
2. 田の床がでこぼこしている。来週から雑草取りも必要になりそう。

<竹林編>メンバー：石田、久保、高橋、松本純 計4名

3. 午前 チッパーで伐採・積載していた竹を処理。今年生えてきた竹の伐採。チッパーはカルイ製「DRACOM」を使用(テツさんが朝、現場に搬送)。
4. 午後 チッパーで伐採・積載していた竹を処理。実績は、斜面最下段にあった分すべて片付けた(が、まだ、下段、中断、上段に残っている)。竹2本を伐採、チップ化(午前1本、午後1本)、今年の若竹をチップ化(5本)。
5. **要注意!** 途中、水分のある竹や繊維の多い竹がチッパーの中につまってしまう。無理に押し込んだのもよくなかった。応急的に機械を一部開いて回転部分に手を入れて清掃。いずれ、分解清掃も必要。
6. テツさん直売所裏の竹林調査。シノダケが繁茂している。今後整備する予定。
7. タケノコ収穫6本(竹林班で持ち帰る)

●チッパー運転上の注意点

8. チッパーに竹などを投入後は機械に任せて、手は離し、無理に押し込まない。
9. チップがスムーズに排出されているかを常に確認する。
10. 腐敗(分解)して繊維状になったものは入れない。ロータリーにこびりついて詰まりの原因になる。(もうすぐ分解して土に還るし)

●竹チップの利用

- ・ 畑の肥料兼マルチとして効果がある。特に若いのはいいらしい。石田リーダーが持ち帰る。山ほどあるので皆さんもどうぞご利用ください。畑班ご検討ください。
- ・ チッパーを新機械倉庫まで搬送、収納。18時に終了。

(竹林編記録：Hi-Lucky 高橋)

<畑編>メンバー：磯、坂本、佐々木利江・優聖、高田直子、佐藤母子、松本妻 計8名

11. 堀の内の畑のまわりの草取り。鎌を使用し、畑の周囲の草を取った。先週の残りを小一時間で終了。
12. サトイモの芽が出始めていた。スイカは、しっかりと育っていた。
13. 14時30分頃、畑組の作業が終了したので、今日はここまでとする。15時上がりの松本洋子さんと磯さんは谷戸に戻り、鎌の手入れをしてくれるとのこと。畑で解散とする。

(記録：チャリママ)



機械で真っ直ぐ植えられず、迷いながらの補植。



チップターの威力は凄まじい。まだまだ竹林整備は続くので何度も活躍するだろう。

5月28日（土）は、サツマイモ苗が間に合わず、しかも雨のために作業は中止。

朝から集まった人は、石田、加藤、霧生、久保、佐々木利江、高田直子、高橋、松下、藤田の9名。せっかくなので、雨の谷戸を散策して解散。

その後、有志が園主の田奈農協裏田んぼの草取りを手伝う。

今期、9回目の土曜日だったが、そのうちの4回が雨。今年度は雨との戦いになりそう…。



第9回 『田植え、サツマイモの植付け、ハウスの雑草取り』

と き 2001年6月4日(土) 9:30 - 17:00

ところ 谷っ戸ん田、畑、テツさんのビニールハウス

天 気 晴

参加者 石田(午後)、磯、オズ、梅下早苗・日菜子・浩太郎・裕次郎、霧生、久保、坂本、柴田(午前)、佐々木利江・優聖(午前)、藤田(午前)、福井(午前)、福富(午前)、松本夫妻、吉田(午後)
計19名(子供4名含む)

●午前 広場で打ち合せ後、2手に分かれることになった。

《田んぼの作業》

・田んぼ周辺の草刈り ・田んぼの水抜き

《畑の作業》

ー当日の準備ー

- ・サツマイモ(ベニアズマ)苗130本:ミヨシにて予約購入。
- ・前日に高田さんが水を入れたバケツに入れた状態で広場のロッカーに搬入。
- ・鶏糞(フジミの発酵ケイフン)15kg x 4袋。:当日、JAで購入。
- ・ワラ:グリーンから分けていただく。グリーントラックで他の器具と一緒に運搬。
- ・トラクター:畑側の大場さんのものを借用。
- ・クワ2本、支柱数本:グリーンから借用。 ・カマ数本:テツさんから借用。

ー作業ー

- ・サツマイモ苗の植え付け:カマを定規のようにマルチにあてて、刃先で等間隔に印をつけていき、後からその印に支柱を挿し、苗植え用の穴をあけていった。
- ・株間は40cm。定規と穴開け器を忘れたので、カマの柄でおおよそ40cmとして計測。
- ・苗がマルチにあたって傷まないよう今回は「垂直植え」。2節程度まで土をかぶせていった。
- ・里芋・エビ芋の追肥:苗を植えたマルチの歩きに沿って肥料を播き(約1袋半)、クワでさくり、土に混ぜ込んでいった。まだ小さかったので株間の間に肥料を入れる方法もあった(参考まで)。
- ・スイカの追肥とワラ敷き:苗の近くのマルチ周辺に約半袋の肥料を播き、クワで土に混ぜ込んでいった。その後、マルチ両側約1mワラを敷いた。
- ・除草:苗周辺と大豆畑用エリアの草取り。大豆エリアはトラクターで耕運し雑草をすき込んだ。
- ・里芋の10本中9本程度は発芽していたが、えび芋の発芽がいまひとつで心配。

●昼休み 各自、弁当等を食べて休んだ。

今後の作業段取りを確認する「連絡会」をし、以下の話しをした。

- ・田んぼ班:ここ2ヶ月の予定は決まっており、すでにHPに掲載済。
- ・竹林班:作業の空いた時間に、少しずつ進めればよい。
- ・畑班:6/25か7/2に大豆の種まき。夏までは畑の様子をみながら、草取りの段取りを決める。
- ・その他:暑気払いを7/30に開催。(テツさんの小屋)松本さんが幹事。

●午後

《もち米の田植え》

ー当日の準備ー

- ・田んぼ定規x2:グリーンより借用
- ・支柱とひも(ロープ):田んぼ定規をまっすぐ引くための目安を作るため。
- ・もち米の苗:喜寿(テツさんから分けていただいたもの)+満月(4月に手まきしたもの)

ー作業ー

- ・もち米エリアに田んぼ定規ですじひき。
- ・「満月」の苗は発芽も成長も悪く(かびのせいかな?)、テツさんから分けていただいた「喜寿」を中心に手植えて使用。左端に数列だけ使えそうな「満月」の苗を手植え。
- ・2種の境目が分かるように、支柱を立てて糸をひいておいた。

- ・水が未だ抜け切れておらず、すじひきの線が分かり難くて苦戦。
- ・田植え初体験の子ども達は、泥んこになりながらも楽しそうだった。

《ハウスの草取り》

- ・田んぼ側のアスパラガスのビニールハウス内の草取り。 ・すぎなを手でとっていった。

《苗箱洗い》

- ・当日使用した苗箱を、テツさんの作業小屋の前で洗浄。

(記録：霧生)



サツマイモの植え方を伝授。初挑戦のスイカは過保護か？



すじひきには、多数の監督が。



靴下三兄弟が手植えに挑戦。



アスパラガスのビニールハウスで草を取って一日の作業を完了。

第10回 『田の草取り、補植』

と き 2011年6月11日(土) 9:30 - 11:00

ところ な～に谷っ戸ん田

天 気 雨

参加者 石田、磯、久保、松下、松本夫婦 計6名

《田の草取り・補植》

○使用道具：田車3台（グリーン所有物）

本格的な雨で、谷っ戸ん田の状況把握程度で終わるかと思われたが、田の草も日々成長しており、あと1週間も見過ごせないということで、石田リーダーがグリーンより運んでくれた田車3台で一通り稲間を攪拌した。田車にあぶれた人は素手で草取り・補植等を行った。

《番外記事》

谷っ戸ん田の奥・テツさんのハウスの先の和久さんの畑を、テツさんがユンボで田んぼに造成していた。何とも簡単そうに仕上げた。

明日(6/12)には田植えを行う予定とのこと。和久さんの1年分の米は十分取れそうな田んぼである。

(記録：松本 純)





「マツシタさん、
どうです田車の調子は？」

「田植えは、まっすぐが
大事なことが分かりましたよ」



楽しみな年末の餅つきのために・・・



田んぼ造りの新しい技

第11回 『田の草取り、補植、苗箱洗い』

と き 2011年6月18日(土) 9:30 - 17:30頃

ところ 谷っ戸ん田、田奈農協裏の田んぼ、谷っ戸ん田小屋前

天 気 曇り、のち雨

参加者 石田(午前)、磯、霧生、久保、坂本(午前)、佐々木利江・優聖(午前)、福井・瑞季(午前)、松本夫妻、丸山(午後)、園主(午後) 計13名(子供2名含む)

●午前

《谷っ戸ん田の草取り》 9:30 - 11:00

- ・田車なし。手作業で草取り。田んぼは水がいっぱい張ってある。水温は低くひんやりしている。
- ・モチ苗の結着は思ったよりもよい、と石田さん。
- ・ウルチも順調に育っているが、なん本かの苗に黄色く斑点がでてるのが気になる。
- ・この斑点は石田さんによると次の通り。
これは稲水象虫(イネミズゾウムシ)の被害らしい。
この時期の被害は恐ろしくない。草取り最中に見付けたらつぶすぐらいの駆除方法でよし。
稲水象虫の発生時期は2回あり。2回目の7月末に発生するやつらは恐ろしい。
- ・田の草取りの要点は「丁寧にやらず、テキトーに広く浅く全体を終らせる」こと。
- ・取った田の草は踏んづけて田んぼに沈め肥やしにすべし。
- ・モチ田中心に草取りを行うが、ウルチ田の方は時間切れで3割ぐらい取り切れなかった。
- ・休憩時に、坂本さんから還暦のお祝い品、福井さんと佐々木さんからおやついただきました。

《テツさん田んぼの補植手伝い》 11:30 - 12:30

- ・田奈農協裏の田んぼに移動。補植苗はあらかじめテツさんが運んである。
- ・手分けして2枚の田んぼの補植を完了。
- ・後でテツさんに聞いたところ田んぼは4枚あるとのこと。つまり2枚やり残している。

●お昼

- ・石田さんがお弁当調達を引き受けてくれました。大盛り弁当ごちそうさまです。

●午後

《苗箱洗い》 14:00 - 17:00

- ・作業員はテツさん含め7名。この人数で苗箱320枚をやっつける。
- ・苗箱のセットに1名、苗箱洗い機に1名、洗浄水槽に3名、洗浄後の苗箱片付けに3名。
- ・みんなで黙々と洗う。水産加工品の工場みたい。途中から雨。かっぱを着て黙々と洗う。
- ・苗箱は洗浄後、型を揃え10枚セットにして紐でゆわえておく。

●その他

- ・「上農は草を見ずして草を取り、中農は草を見て草を取り、下農は草を見て草を取らず」という言葉を石田さんから教えていただきました。
- ・上農の極意として、雑草がでるかでないかの時期に雑草対策(としての中耕など)をやるのだ、との意味。なるほど。Webで調べると二宮尊徳のコトバとあるのだが本当ですかね。
- ・坂本さんが、九州ご実家から田植時に使う紐を持ってきてくれました。苗を植える間隔で赤い印が打ってあります。また、一本田車も持って来れそうとのことでした。
- ・テツさんがハウスで作っていたニンニクを希望者に分けていただきました。
- ・19:30頃、久保さんから谷っ戸ん田で蛍観賞をしているとのメールがMLに入りました。

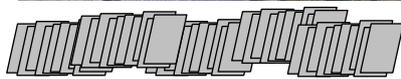
(記録: 磯 直行)



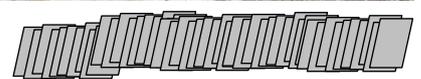
田んぼでは、子どもが主役



主役も、たまには休憩



苗箱、320枚をやっつけました。



第12回 『田の草取り、補植、畑の雑草取り』

と き 2011年6月25日(土) 9:30 - 16:00

ところ 谷っ戸ん田、田奈農協裏の田んぼ、堀の内畑

天 気 曇り

参加者 石田・ひで、磯、梅下早苗・日菜子・浩太郎・裕二郎、加藤(午前)、久保、坂本、
佐々木利江・優聖、高田直子、福井・瑞季(午前)、松本夫妻 計17名(子供6名含む)

本日の作業予定を次のように設定。

- ①谷っ戸ん田の草取り。
- ②テツさん田んぼの補植手伝い。残りの2枚。
- ③畑の草取り。

田の草取りを午前中に終らせ、午後から補植と雑草取りという段取り。

●午前：谷っ戸ん田の草取り

- ・田車なし。手作業で草取りを行う。稲の株間を重点に取る。
- ・ヤゴがトンボに成り立てで、田んぼにジャポンしているのを何匹か見た。
- ・稗も出ている。適当に水分を補給しながら行う。凸凹の田んぼに足腰も鍛えられる？
- ・福井さん、梅下さんからおやついただきました。ありがとうございます。
- ・私は、稲につく虫もよくわかっていませんで、まだまだです…。

●お昼：各自コンビニ弁当など

●午後：テツさんの田んぼの補植と畑の草取り

- ・田奈農協裏のテツさん田んぼに移動。補植苗はあらかじめテツさんが運んである。
- ・2枚やり残していた田んぼやる。
- ・ちょこちょこ細かくやるよりも、ドカーンと開いている場所を見つけて補植するのがいいらしい。
- ・補植後、畑に移動。
- ・見るだけでもいいかと思っていたら、畑の周りの雑草天国になっていたもので、鎌でざくざく刈る。
- ・あまりにも切れない鎌に悲鳴をあげると磯さんが研いでくれた。
- ・小学生も鎌を使うので、適した大きさとかこれだけは危ないよとか教えてあげたいなと思った。
- ・草取り後、谷戸にもどり、子どもたちが遊ぶのに使ったスコップの後片付けをし、終了。



(記録：チャリママ)

谷っ戸ん田の夏の風物詩。
這いつくばって、
這いつくばって草を取る。





田奈農協裏の田んぼの補植。子ども達のお手伝いは、道路に将来の家の設計図？



暑気払いのスイカ割まで35日。

サトイモは順調に成長。



第13回 『大豆種まき、田の草取り』

と き 2011年7月2日(土) 9:30 - 17:00

ところ 堀ノ内の畑(午前)、谷っ戸ん田(午後)

天 気 曇り時々晴れ

参加者 石田(13時半まで)、磯、梅下早苗・日菜子・浩太郎・裕二郎、オズ、加藤(午前)、霧生、久保、坂本、佐々木利江・優聖、柴田(午前)、高橋、高田直子、藤田(15時まで)、福德(午前)、松下、丸山、吉田(14時半まで) 計17名(子供4名含む)

●午前：大豆の種まき 大豆をまく畝を作り、キヒゲンをまぶした大豆をまいた。

10:10 畑に到着

- ・今日は曇り勝ちで仕事し易い。ネジバナ、ムラサキツユクサが美しい
- ・耕運は、事前に柴田さんが堀ノ内畑へ行き、トラクターでうなってくれていた。
- ・トラクターでならした土に、75cm間隔でメジャーを張り、その上を歩いて足跡で線をつける。
- ・その足跡に沿って鍬で15cmほどさくって畝を作る。手の空いている人は、並行して草取り。

10:50 休憩 風が涼しく気持ちよい。

11:08 作業再開

- ・長さ40mほどの畝が6列できたので、白大豆を4列、黒大豆を2列まくことにした。
- ・鳥食害を防ぐ目的で、真っ赤なキヒゲンR-2を5-10kgに1袋の割合だが、使用する大豆が少ないため、色かげんを見ながらまぶす。
- ・目印ヒモ(坂本さん実家から提供：注)を張り、目印に大豆を2-4粒ずつまき片足で土をかぶせる。
- ・約20cm間隔に赤いビーズの目印を編みこんだ便利なヒモのおかげで、仕事がとても楽だった。
- ・最初は両足でかぶせて深く埋め過ぎてしまったが、かぶせる土は種の2倍程度にする。
- ・石田さんがサツマイモの補植のやり方を見せてくれたので、マルチの空いている場所に各自補植。
- ・伸びのよい茎の先を2-3節分切り取り、土に植える。

※注 畑でウネを作るときなどに建築の水系のように引く紐を「畝引き縄」といいます。

また、畝間や株間がわかるように目印にする棒は「バカ(棒)」といいます。

あの紐は両方の役目。まずは、畝引き縄でいいかと思いますが…バカ付き畝引き縄？

By 石田さん MLでのフォローから抜粋

12:00 種まき終了

- ・谷戸へ戻り昼食 ~ 13:30 ・田んぼ周りで石田さんが次々と蛇を捕まえて見せてくれた。

●午後：田んぼの草取り

- ・坂本さん実家から田車1台が送付されてきました。
- ・谷っ戸ん田デビュー。かなりの年代物ですがちゃんと動きます。
- ・アルミ製に較べると重く田んぼで押すのもかなり力が要りますが、働いてくれるのはありがたい。
- ・二条植えの田車2台を通販で注文していますが、今週中には届かず。

13:30 頃から、谷っ戸ん田の草取り。先週もやったはずなのに、雑草はもう生えてきている。

- ・坂本号+テートルで、株間の草を意識しながらの作業。
- ・夏の日差しの下、雑談しながらのんびりと田の草取りをするのは楽しいです。私は好きです。

14:30 ごろ休憩。

15:00 ぐらいから作業再開して16:00 過ぎまで作業。谷っ戸ん田全体の草取り完了。

17:00 ごろ本日の活動終了。

(記録：藤田 廣子、磯 直行)



暑気払いのスイカ割りまで28日。畝引き縄が最初から活躍。クワもスイスイと…。



キヒゲンの赤と、帽子の赤が眩しい。



大豆まきを手伝ってくれたご褒美に、トラクターに乗車。



坂本さんご提供の畝引き縄。サツマイモの補植もお手伝い。へビは人気者？



坂本さんご提供の一条田車。坂本号+テデツールで草取り完了！

**第14回 『畑の草取り、大豆追い蒔き、サツマイモ追植、
田奈農協裏の田んぼの草取り、谷っ戸ん田の草取り・肥料撒き』**

と き 2011年7月9日(土) 9:30 - 15:00頃

ところ 畑、田奈の田んぼ、な～に谷っ戸ん田

天 気 晴れ

参加者 石田(午前)、磯、霧生、佐々木利江、加藤(午前)、久保、坂本、高橋、松本純 計9名

●午前 畑の草取り、大豆の追い蒔き(種蒔き)、サツマイモの追植、田奈農協裏の田んぼの草取り

- ・ 使用道具：管理機(小型耕運機)・鍬・鋤簾・鎌
- ・ 管理機にて畝間を攪拌しながらの除草。
- ・ 鍬、鋤簾、鎌なども使いながら成長著しい夏草を除草。
- ・ 上農の除草作戦『草を見ずして草を取る』の実践。週末耕作としては重要な点。
- ・ 管理機を谷っ戸ん田で購入する案も出た。
- ・ 大豆の畝で、芽の出ない箇所等への種蒔き。
- ・ サツマイモの畝の未植の部分に、隣の畝で成長しているサツマイモの芽を切って刺す。

- ・ その間に、加藤・高橋でラディッシュの種を蒔く。
- ・ スイカの手前に二つ、小さな畝を作り、そこに「ベビーラディッシュ」(球形・赤)と「ミックスベビー」(大根形・赤白)の二種類を植える。収穫は三週間後。

- ・ しっかり成長中のスイカの1つをカラスに突かれていたため、養生用メッシュシート(落葉集めに活躍し、2分割の様になってしまったもの。正式名称はターポスクリーン)を掛けた。
- ・ 坂本さんは、谷っ戸ん田にて田車《坂本号》の補修に専念。

- ・ 田奈農協裏の田んぼの1枚で草取りを行った。
- ・ 畑作業に思いの外時間を取られたため、皆で田んぼに入って歩く程度の作業で終わる。

●昼食 各自コンビニ調達の昼食を摂る(13:00~13.30)。

●午後 谷っ戸ん田にて田の草取り及び肥料撒き。

- ・ 磯リーダーが調達の(柴田さんが朝運んでくれた)田車のケースを開放した処、部品不足が発覚。
 - ・ 車付きの船の部分のみで、柄の部分が無かった。
 - ・ 坂本号も大事を取って使わず、結局テデトルのお出ましとなる。
 - ・ 真夏の炎天下、1時間作業した処でメンバーの健康を考え終了(無理は禁物)。
- ※松本から、ちんすこうの差し入れ。

(記録：松本 純)



磯さんは田車の誤配送に愕然。「柄がないなんて、絵にもならない…」 坂本さんは補修に専念。



暑気払いのスイカ割りまで21日。しかし、カラスに突付かれたスイカも発見し、厳重体制に。



男性陣ガンバル。サツマイモ追植。ラディッシュの種を蒔き、愛の水を撒く。



田の草取り。左：アシデフォーム型、右：テデトール型。

第15回 『田の草取り』

と き 2011年7月16日(土) 9:30 - 17:00

ところ 堀の内畑、田奈農協裏の田んぼ、谷っ戸ん田

天 気 快晴

参加者 石田(午前)、磯、加藤(午前)、霧生(午前)、久保、佐々木利江 計6名

●午前

- ・「田車の柄」がようやく届き、さっそく船の部分との組み立て作業に入る。
- ・工具が無くて、霧生さんの車の工具を使う。新品二台が完成。
- ・「腕金貨印」という商標が不思議で久保さんがカメラで記録する。

- ・堀の内畑の視察。スイカは順調に生長中。鳥の被害もない様子。小玉もいくつか大きくなっている。
- ・石田さんの「上農は草を見ずして草を取る一上農作戦」が成功して、大豆の畝間は草一本なし。
- ・追加で植えた黒・白の大豆も順調に育っている様子。
- ・水やりをしてないラディッシュもちらほらと芽が出てきた。補植したサツマイモも根付いた様子。

- ・11時ごろに田奈農協裏の田んぼに到着。テツさんはすでに田んぼ周辺の草刈り中。
- ・さっそく田車三台(坂本号と新車二台)で草取り作業開始。
- ・巨大オモダカと水面の藻に悩まされつつ、それぞれの田の三分の一弱を終える。
- ・風があるものの直射日光が辛い。一往復でも汗が吹き出る。
- ・隣の田んぼのおじさんから「刈った草が流れて水路を塞いでいる」との苦情あり。草を取り除く。
- ・昼になり、田車を洗って谷っ戸ん田へ。良い風が吹いて一同ほっと一息する。木陰が気持ちいい。

●昼食 各自、お弁当。

●午後

- ・石田、加藤、霧生が離脱。磯・久保の二名だけが残る展開に。
- ・相談の結果、田車で谷っ戸ん田の草取りをすることに。暑さを避け、作業再開は14:00過ぎとした。
- ・佐々木さんから連絡があり、午後の作業参加OKとのこと。三人でがんばる。
- ・14:00ごろに佐々木さんが合流。なんだかんだで14:30ごろから作業再開。

- ・夏の午後の草取りは辛い。休み休みですが、田車2丁、三人で谷っ戸ん田のうるち米部の草取り。
- ・日が傾くにつれ、風が出てきて作業し易くなりました。
- ・16:30ごろに作業終了。もち米の方までは手が回りませんでした。
- ・田車二丁は、上ハウス奥に置かせてもらっています。坂本号は物置の中にあります。
- ・そろそろ田んぼの中干しをする時期に入りますので、次回の草取りが今期の最後になると思います。
- ・17:00ごろに解散しました。

《追記》

昼休みに自前ハンモックを吊って昼寝をしてみました。
谷っ戸ん田の木陰は風が涼しく、草や木立が騒ぐ音も心地よいです。昼間はヤブ蚊も出ません。
軽く揺れるハンモックに横になると、震災や原発事故のことも、来週の仕事の予定も、午前中の労働のことすらどっかに行ってしまいます。
青い空に葉っぱが揺れて、涼しい安らかな空気に満たされて漂っているだけです。
これに勝る夏の午後の過ごし方はなかなかない気がしますね。

(記録：加藤 彰、磯 直行)



田の草取りが終わる季節に田車登場。「腕金貨印」水田中耕除草機とある。



暑気払いのスイカ割りまで14日。軍手が縮んだわけではない。上農作戦の結果。完勝！



田車トリオ。マサ、ナオ、シュウ。



田車コンビ。トシ&ナオ。卸し立ての田車を丁寧に洗って完了。

第16回 『田の草取り』

と き 2011年7月23日(土) 9:30 - 17:00

ところ 谷っ戸ん田、堀の内畑(視察)

天 気 晴、時々曇り

参加者 石田(午前)、磯、梅下早苗・日菜子・浩太郎・裕二郎、久保、佐々木利江・優聖、
佐々木真佐子・美紗、高橋、高田裕司、松本夫妻純・洋子、吉田 計16名(子供5名含む)

●午前

- ・磯リーダーの指示に従い、田車3台で谷っ戸ん田の草取り及び生い茂った畦の草刈を開始。
- ・途中石田さんから、畦の草刈よりも本日は田の草取りを優先すべきとの指摘を受ける。
- ・が、その時は殆ど草刈が終わっていた。
- ・以後は休憩を挟んでひたすら田の草取りに勤しむ。

◆堀の内畑(記録:高田裕司さん)

- ・畑は、大豆が順調に育っており、追植したサツマイモもしっかりと立っていた。
- ・雑草は大豆周辺にはほとんどなかったが、サツマイモの株間には目立っていた。
- ・大玉スイカは苗を調達した梅下さんにより収穫。7月30日に皆で食べることにする。
- ・他に小玉スイカが5個確認できた。

●昼食 各自、お弁当。

●午後

- ・石田さんが離脱。但し、本日は気温も最適で、田の草取りには千載一遇のチャンスなので、しっかりやる様にとの有難いお言葉を残されていった。
- ・残ったメンバーで引き続き草取りを行う。
- ・16:00ごろに、そろそろ終りにしようかとの声も出たが、鬼軍曹・久保さんより、「まだまだモチ米の方の草取りが甘い」との言葉に一同従う。
- ・ラストスパートを掛けて、草取りを納得出来るところまで行い、今期の最後の草取り終了。
- ・これで下農は免れた。か?
- ・17:00前に解散。

(記録:松本 純)





今期最後の田の草取り。果たして下農は免れたでしょうか？

2017.7.30 暑気払い



手作り料理が揃ったところでカンパ〜イ！！



梅下三兄弟 対 萌三姉妹 のスイカ割り対決



最後に集合写真を撮って解散。有志はそのまま二次会へ。

第17回 『堀の内畑の草取り』

と き 2011年8月6日(土) 9:30 - 14:00

ところ 堀の内の畑、谷っ戸ん田

天 気 晴れ

参加者 石田・ヒデ、梅下早苗・日菜子・浩太郎・裕二郎、加藤、霧生、久保、坂本、高橋、高田直子、藤田、丸山 計13名(子供4名含む)

●午前

- ・ 鎌とクワを用意し、畑に移動。
- ・ 里芋、えび芋、さつま芋、大豆ともに順調に成長していた。
- ・ 大豆周辺以外はかなり雑草がのびていたの、見苦しくないように前面から鎌で刈っていき、取り切れないエリアは大きなものだけでも抜くことにした。

- ・ スイカ大玉1コと小玉5コを収穫。小玉1コは残念ながら割れており蟻の餌になっていた。
- ・ ラディッシュも20コ程度収穫。あまり水やりが出来ていなかったせいか、不揃いだった。
- ・ スイカの苗とマルチも撤収。クワできれいにして、ラディッシュの種を蒔き水やりをした。

- ・ サツマイモは追植した苗が枯れてしまっているところもあった。
- ・ 先に植えたものはツルがのび、合間に雑草が目立っていたので、除草も兼ね「ツル返し」をした。
- ・ ツル返し：ツルを畝側に持ち上げて、ツルの途中から出た根を切る。
- ・ 暑いので水分を補給して休みながらの作業。12時前には終了にして谷戸に戻った。

●昼食

- ・ 各自、お弁当。
- ・ 収穫したラディッシュとスイカを参加者でいただいた。
- ・ 小玉は甘かったが、大玉は皮が厚くて薄味。
- ・ もう一週間おいておいたほうがよかったか？残りは子どものいる家庭等に持ち帰ってもらった。

- ・ 子ども達は水遊びやカブトムシ採集で元気だったが、大人は午前中の作業でお疲れ気味。
- ・ 谷っ戸ん田に残っていた補植用の苗を数人が片付けて、早目に解散。

(記録：霧生)





田の草取りは終了しても、畑の草取りは終わらない・・・。



ツル返し。「ツルの恩返し」ではない。スイカは成功だったのか？それとも、課題が残ったのか？



ラディッシュを追加で蒔く。7月9日の水やりコンビは解散されたようだ。



「ちょっと待ってねえ」「スイカ割りに再挑戦したかったのに・・・」

第18回 『田んぼの糸張り』

と き 2011年8月13日（土） 9:30 - 14:00

ところ 谷っ戸ん田

天 気 晴、時々曇り

参加者 磯（10時40分頃から）、霧生、久保、坂本、佐々木利江、高田裕司、松下（10時頃から）、松本夫妻、丸山、園主 計11名

●午前

- ・まずは、テツさんからの指示「糸張りするならまず草刈りだ」により、畔の草刈りを刈払機3台と草刈りカマで行う。堆肥山の草取りも行った。
- ・途中休憩時にテツさんからカマの研ぎ方の講習あり。

- ・そして、糸張りを行うため、支柱3本を三角形にしたものを20か所（長い部分を各8本、短い部分を各2本）立てる。
- ・その際、糸を支えるためには、支柱を並行に並べるのではなく、三角形にすることに注意した。
- ・糸張りの際、「糸の使い方（無理やりたぐるのではない）によりからまる場合があるんだよな」というテツさんのつぶやきがあった。
- ・縦の糸を支えるため、テツさんの指示により、田んぼの中4か所に1本ずつ支柱を立て、そこに糸を持ち上げて巻き付けた（霧生、丸山、松本洋子）。そのときしりもち事件が起きた。

◆使用したもの：糸、支柱60本以上、刈払機3台（以上、テツさんが準備）、草刈り鎌
12:20頃、糸張りが終わったところで本日の作業は終了（暑い中での畑の作業を回避）。

◆田んぼの様子：コシヒカリともち米（満月）は稲穂が出ていたが、テツさんからわけていただいたもち米（喜寿）は、まだ稲穂が出ていない。

●昼食 各自、お弁当。

●話し合い

昼食後、次回からの作業の打ち合わせとテツさんを交えて少し話し合いをした。

- ・次回の畑の作業（草取り）は、朝7時頃から行い（遅れての参加もOK）、終わりも早めにする。
- ・テツさんの他の田んぼの草取りをすることもある。その場合は事前にテツさんに連絡。

- ・今年で当初予定していた5年が終了する。
- ・来年度以降の谷っ戸ん田をどうするのかを考えないといけない。
- ・会費をどうするのか、人数はどうするのかなどを考えて行かないといけない。
- ・まずは会員で、臨時総会などを開くなどで意見集約が必要
- ・協定事業については、今年で終わるのではなく、平成25年12月31日まで続く（高田確認済）。

（記録：高田 裕司）



谷っ戸ん田



こんがらがって



夏盛り



麦藁帽子に



糸がつながる

第19回 『畑の草取り』

と き 2011年8月20日(土) 7:00 - 12:00

ところ 堀の内畑

天 気 曇り

参加者 石田・ヒデ(途中から)、オズ(途中から)、梅下早苗、霧生、久保、坂本、高田直子、藤田(途中から)、松本夫妻、松下(途中まで)、吉田(途中から) 計13名(子供1名含む)

●畑作業

- ・テツさんよりカマとクワを借用し、ロッカーに保管していた鶏ふんをもって畑に移動。
- ・隣接する畑との境目を含め、畑全面の草取りをした。
- ・前日に雨が降ったせいか、畑の作物はイキイキとしている。
- ・大豆の開花が始まっていた。
- ・7/16に種を蒔いて大きくなったラディッシュを30個程度収穫。
- ・先々週に蒔いた分は日照りにやられて発芽が少なく、葉やけしているものも多かった。
- ・次回じゃがいもを植える予定の左端の畝と、スイカやラディッシュを植えていたエリアに5列程の畝の目安をつけて、鶏ふん約1/3袋を撒きクワで混ぜ込んだ。高田家の三つ又クワが活躍。
- ・早朝の時間に加え、この夏一番の涼しい陽気に作業が捗り、10時半頃には畑作業は終了した。

●田奈の田んぼの視察

- ・ヒエ取り名人(誰?)も「ヒエ~!!」というくらい、すごいことになっていた。一同、肩を落として早々に退散。

●竹林の視察

- ・しばらく行けなかった分だけ雑草が生い茂り、こちらも大変なことになっていた。
- ・しかし、竹林との境のあたりにミョウガの群生有り。茎の周りに積もった落ち葉をかきわけ、やぶ蚊に刺されながら収穫させていただく(50個くらいか?)。

●谷っ戸ん田

- ・作業小屋の前でカマやクワを洗浄し返却。
- ・広場でミョウガを分配し、次回の打ち合せを簡単に行い解散。
- ・我らの田んぼはほとんどヒエもなく美しい。
- ・喜寿の出穂はこれからだが、コシヒカリも満月も穂をたれて、収穫の秋を待っている。

(記録：霧生)





夏草は 秋に近づき 緑濃く 汗流しても 秋色遠し



第20回 『ジャガイモ・白菜植え付け、な～に谷っ戸ん田のヒエ取り』

と き 2011年9月3日(土) 9:30 - 14:30

ところ 堀の内の畑、谷っ戸ん田

天 気 晴れ、曇り、風、時に雨

参加者 磯(11時から)、梅下早苗(午前)、オズ、霧生(午前)、久保、坂本、佐々木利江、高田直子、高橋、藤田(午前)、松本洋子(午前+α)、丸山(午前) 計12名

先週は風雨で作業は中止。

予定していたジャガイモ、白菜の植え付けができなかった。

ジャガイモは適期がかなりギリギリ、白菜においてはちょっと遅いくらいという状況下。

次週10日は稲刈り予定。畑班は、なんとしても今週やりとげたいという強い思いがあった。しかし、無情にも大型で強い勢力の台風12号は、今朝四国に上陸。横浜も大雨の予報である。

明日4日(日)にという苦肉の策も出たが、予報が外れがちな天気予報にゆだねるよりも、畑班・高田が朝6時の空模様を見て判決を下すことを決断。

彼女と皆の願いは見事かなえられ、畑作業は決行。

途中雨も降ったが、無事、ジャガイモと白菜の植え付けは完了したのである。

●畑作業

テツさんよりカマとクワ(4本)を借用し畑に移動。

◆ジャガイモ

- ・ジャガイモ植え付け場所の草取り。
- ・ジャガイモ畝づくり。50m×1列、6m×1列。
- ・ジャガイモ「ニシユタカ」約120個(7.5kg)使用。半切したものは切り口にシリカをまぶす。
- ・小さいものは1個のまま植えた。
- ・ジャガイモの間隔は40cm(切り口を下にして植える)。坂本実家糸巻きを利用する。
- ・植えた数は、計算上だと $56m \div 40cm = 140$ 箇所(約)となる。

◆白菜

- ・白菜畝づくり、60cmの畝幅で6m×2列。
- ・白菜「晴黄90」50cm間隔・深さ2cmで4粒ずつ植える。
- ・12箇所/列×2列=24。名前どおり90日後、完全だと24個の白菜が収穫できる。
- ・大豆とサトイモの間、サツマイモと大豆の間の草取り

●田んぼ作業 …… 谷っ戸ん田のコシヒカリパート

- ・11時より、磯さん一人にてヒエ取り。
- ・昼食後、13時40分より14時10分まで全員(8人)でヒエ取り。
- ・ぬかるみに足をとられ、作業は難渋。

(記録：高橋)



第21回 『ヒエ取り、大根&かぶの種まき』

と き 2011年9月10日(土) 9:30 - 16:15

ところ 堀の内畑、田奈農協裏の田んぼ

天 気 晴れ

参加者 石田+ヒデ、磯、梅下早苗・日菜子・浩太郎・裕二郎(午前)、オズ、加藤、霧生(午前)、久保、坂本、佐々木利江、高田直子、高橋、松本夫妻 計17名(子供4名含む)

●午前

- ・10時半、堀の内畑に。先週種まきした白菜の発芽を確認。かわいい芽が正しく発芽していた。
- ・豆もだいぶ実をつけはじめ、里芋・サツマイモも期待できそう。
- ・10時35分、田奈農協の裏の田んぼのヒエ取りに向かう。全面と奥が特にすごい。絶句呆然。
- ・しかし、くじけることなく水路周辺の草刈りとヒエ取りに挑戦。
- ・とにかく暑い。休憩をはさんで1時間20分ほど作業する。
- ・石田さんのアドバイスで途中から密集場所では穂先を刈り取ったが、田んぼの1/3しか進まず。
- ・12時15分、雑草とヒエを一ヶ所に集めて午前の作業を終了。

●昼食 谷っ戸ん田に戻って、各自、お弁当。木々をわたる風が心地よい。

●午後

- ・まったく休憩後、堀の内畑に向かう。
- ・草刈り作業も同時進行しつつ、50~60cm幅のうねを二列作り、大根の種「千都」くんをまく。
- ・「がんばれ千都くん！」とつぶやきつつ、一畝に二列、30cm間隔で浅く五粒ずつ。
- ・白菜のうねの間にもううね耕し、そこにかぶの種「スワン」ちゃんをまく。
- ・20cm間隔、一列。「スワンちゃんもがんばるんだよ！」とにかく、たねまきは楽しい。
- ・水まきをするかどうか、議論もあったが、
- ・高田マドンナが「飛行機雲が出ているから、明日は雨よ！」とお天気お姉さんになりきって予報。
- ・高橋さんが「俺は下駄だった」と返したりして、みんななんとなく納得して水はまかなかった。
- ・その間に石田さんは久しぶりの刈り払い機を駆使して畑周辺の草刈り。
- ・午後はその勢いのまま、田奈農協裏の田んぼ周辺を一人で草刈り。
- ・約一時間で種まきは終了。
- ・3時前だったので、作業を終えても良かったが、やりのこしたヒエ取りが気にかかる。
- ・洋子さんの一声「一時間ぐらいヒエ取りしましょうよ！」。
- ・一同、「ヒエー！」と叫びつつ、田んぼに向かう。
- ・その後、黙々とヒエ取り作業を続ける。
- ・一時間で、三分の二強が終了。見渡すと、田んぼはずいぶんきれいになった。
- ・とにかく暑い一日だった。今日は参加者も多く、課題であったヒエ取り作業も大いにはかどったが、量が多く、田んぼ一枚終わらせることはできなかった。
- ・お借りした鍬・鎌、刈り払い機を片づけて本日の作業は終了。お疲れ様でした。
- ・皆さんからの差し入れ・・・チョコ、ラスク、おせんべい、卵饅頭などなど。

(記録：加藤 彰)



ヒエ取り軍団登場！
いつの間にか、見知らぬ人が見学に。



男の子達はカエル採りに夢中。



ぽってりスワンちゃん と ほっそり千都くん



ヒエ取りリーダーのご指導で、
田んぼはずいぶん綺麗に。

第22回 『堀之内畑の芋試掘り、田奈農協裏の田んぼのヒエ取り、話し合い』

と き 2011年9月17日(土) 9:30 - 15:00

ところ 堀之内の畑、田奈農協裏の田んぼ、上のテツさん小屋

天 気 晴れたり曇ったり、時々どしゃぶりの雨

参加者 石田・ヒデ、磯(午後)、梅下早苗・日菜子・浩太郎・裕二郎、オズ(午前)、加藤(午前)、霧生、久保、坂本(午前)、佐々木利江・優聖、高田直子、藤田(午後)、松下(午前)、松本夫妻、丸山(午前)、吉田 計21名(子供5名含む)

●午前

- ・田奈農協裏の田んぼへ向かう。先週ある程度取り除いたヒエも、1週間経つとそれなりに回復。
- ・気を取り直して11時までヒエの穂先取りに勤しみ、それなりに田んぼらしくなった!?
- ・堀之内の畑に移動して、サツマイモとサトイモの試掘り他の作業を行う。
- ・サツマイモは一列の、隣に大豆が生えている辺りまで掘り、サトイモは4株?掘り起こした。
- ・サツマイモはなかなかの出来、サトイモはもう少し置いた方が良さかもしれなかった。
- ・休憩に加藤先生よりお煎餅、松本より梨の差し入れあり。

●昼食 雨だったので、上のテツさんの小屋で各自用意(調達)したお弁当を食べる。

●午後

- ・天気が気まぐれであり、急いで行う作業も無いことから、谷っ戸ん田の今後についての話し合い。
- ・主な議題は今年度で横浜市の栽培収穫体験ファームの期間が満了するのに伴い、来年度以降も自主的にな〜に谷っ戸ん田を継続するか否かについてであった。
- ・この場に出席したのは全11区画の内の8区画メンバー(加藤、オズ、高橋の区画が欠席)で、補助金がなくなり、多少負担金が増えても出席の8区画は継続に賛成。刈払機の購入も内定した。
- ・園主の意向がOKと仮定して、正式な話し合いは全11区画のメンバーが揃う別の機会に持たれるが、この場では今後の方向性について、メンバーの意見が一致したものと捉える。
- ・収穫したサツマイモとサトイモの分配について、有料・無料の意見の相違があった。
- ・無料の場合は、分配に参加出来なかったメンバーに対して不公平が生じる(確かに一理あり)等で、今回は11等分したが、菜っ葉類など次週以降まで保管の難しい作物の場合はどうするか。
- ・出席率の問題・労働の対価とは考えないという思想(いつまで皆納得出来るか)等々問題山積。よって持越し課題。

(記録: 松本 純)



色づき始めた谷っ戸ん田



ヒエ取りに終わりはない・・・。



イモ掘りは子供たちのお仕事。



第23回 『稲刈り（コシヒカリ）』

と き 2011年9月24日（土） 9:30- 16:30

ところ やっ戸ん田

天 気 晴れ（稲刈り日和）

参加者 石田・ヒデ、磯、加藤、霧生、久保、坂本（午後）、佐々木利江・優聖、柴田、高田直子、高橋、松本（午前）、松本夫妻、百崎恵美・まる、福德、園主（午前） 計19名（子供3名含む）

●午前：コシヒカリの稲刈り

- ・鳥除け糸と支柱を回収する。ポニーを準備する。
- ・バインダーの回転スペースを確保するために手刈りで隅（幅2~3m）を刈る。
- ・バインダーは2台働く。刈り方を書いて説明するのは難しい。
- ・田んぼがぬかっている心配したが、バインダーで刈れた！高速の方が安定するのだとか。
- ・最短距離を意識して稲を移動する。
- ・落穂を拾うが田んぼの土で完全に真っ黒で驚くことしばし。
- ・もち米の満月は、同時進行により数名で手刈り。
- ・もち米は「良さそう」とのこと「おこわにして食べたいわ」という意見がでていた。
- ・何となく緊張感の漂う作業時間だった…。



●昼休み：各自食事を取る。百崎さんからお土産あり。子ども達が拾ってきた栗をゆでる。

●午後：コシヒカリの稲を干す・後片付け

- ・ポニーを組み立てて稲を干す。
- ・3時の休憩に茹で栗を皆で頂く。栗は水から茹でて、約30分でゆであがる。
- ・マドンナの爆弾発言「立ったついでに…」で場が賑やかになった。
- ・その後、ポニーがなくなったので、支柱や木や竹で作成し残りの稲を干す。
- ・バインダーの掃除と同時進行で支柱を立て、鳥除けの糸を張る（もち米も同様）。
- ・鎌とネコを洗い、支柱を戻し、最後に田んぼ靴も洗い、作業終了とした。生の栗を分配して頂いた。
- ・稲を干す時にやっとほっとしたのか、いつもの調子がでてきたように感じた。
- ・最短距離もポニーの立て方も昨年より、スムーズに出来たと思う。

（記録：チャリママ）



第24回 『畑の作物収穫と試食、田奈農協裏の田んぼヒエ取り』

と き 2011年10月1日(土) 9:30 - 15:30

ところ 堀の内の畑、田奈農協裏の田んぼ、谷っ戸ん田広場、

天 気 晴れ(収穫日和)

参加者 石田、磯(午前)、オズ、加藤(午前)、霧生、久保、坂本、高田直子、高橋、藤田、松本洋子
計11名

《田んぼの様子》

- ・秋晴れが続いたので稲はいい感じで乾燥。決行すれば脱穀可能な状態でした。お天道様は偉大です。
- ・しかし、今週5日は大雨が降り、稲は濡れてしまった。恨めしいのもお天道様です。

《作業内容》

- ・蜂蜜などでお世話になっている和久さん田んぼを手伝う予定だったが、園主が稲刈りをするに。
- ・谷っ戸ん田メンバーは、田奈農協裏の田んぼのヒエ取りに廻る。
- ・青々と一面にそびえ立つヒエ達を思い浮かべてテンション下がる。
- ・まずは、堀の内の畑で作物を収穫して気持ち和やかに、決意新たにヒエ田んぼに向うこととなった。

●午前中① 堀の内畑の収穫

◆サツマイモ

- ・手前側約5m×1畝を掘り22.5kgを収穫。最大級の横綱は1.5kg。
- ・3株4.5kgで1株平均1.5kg。22.5kgで15株の計算だが、そんなに掘ってないとの声もあり。
- ・だとすると1株あたり1.5kg以上の可能性もありちょっとビミョー。
- ・重量をkg単位で記録しながら分配、精算方法や単価は今後決める。

◆サトイモ

- ・3株をためし掘りし、3.1kgを収穫。

◆枝豆

- ・十分生長していないので、できるだけ大粒のものを抜く。大豆6株、黒大豆2株。すべて試食に。
- ・他の作付け状況は、ジャガイモが育っていない(葉がでていない)ところが半分弱あり心配。

●午前中② 田奈田んぼヒエ取り

- ・お隣は生えていないのになぜこの田んぼだけヒエが密生するのか？
- ・田んぼ7不思議のひとつだが、あと6つは何にしようか。
- ・いづれにしても計画的に除去しないとだめだ。そういえば去年も同じ事を思っていた・・・。
- ・ぶつぶつ思いながらヒエの株をバサバサきっているうち、予定3枚のうち2枚近くを取り終えた。

●昼休み

- ・谷っ戸ん田広場にて各自食事を摂る。松本さんの梨、オズさんの京都土産の差し入れ。
- ・枝豆パーティ。沸騰したお湯に塩をまぶした枝豆を2から3分サッと茹で、水切り、ササッと塩をかけてできあがり。ノンアルコールビールで乾杯。

●午後 田奈田んぼヒエ取り

- ・やり残し部分を片付けに、再び田んぼへ。松本ヒエ取りリーダーのもと作業は進み3時には完了。
- ・現地解散、久保さんと松本さんは谷っ戸ん田にもどり片付け。

※使用した道具など：ヒエ取りに鎌、芋掘りにスコップ、運搬に米袋、分配に秤。

※収穫と運搬用のコンテナがあったほうがいいのかも。袋も各自、もしくは会として用意をしたい。

(記録：たかはし)



まずは収穫の喜びで心を和やかにし、
戦場のヒエ田んぼに向かう。



青空に向かってすくっと立つヒエは、
逞しく、そして憎らしい。



ヒエとの戦いは山場を過ぎ、カンパイ！ ただし、ノンアルコールビール。



今期のヒエとの最終戦を終え敬礼！ 来期も続くのだろうか・・・。

第25回 『畑でのサツマイモ収穫、コシヒカリ脱穀』

と き 2011年10月8日(土) 9:30 - 16:30

ところ 堀の内の畑、谷っ戸ん田、和久さんの田んぼ

天 気 晴れ(収穫日和)

参加者 石田、磯(午後)、加藤、霧生、久保、坂本、高田裕司、高橋、藤田(午後)、松本夫妻
丸山(11時まで)、園主 計13名

※途中、横浜市職員の森さんと福德さん。“GEN プランニング”代表の奥村玄さんが来田。

JA 横浜中里支店で、午前中開催の青葉みらい農クラブ主催シンポで一緒だったとのこと。

《田んぼの様子》

- ・水曜日の雨により、昨日の午前の状況では脱穀ができないということ。
- ・しかし、昨日からの秋晴れにより、稲はいい感じで乾燥。
- ・朝、集合したメンバーの中には、本日朝から、脱穀と稲刈りができるのではという意見あり。
- ・園主と田んぼ班リーダーの磯さんの話し合いを尊重し、本日は他の作業をすることに。
- ・まだ稲刈りの済んでいないもち米は、3割程度倒れている状況。
- ・まず、午前中は堀之内の畑でサツマイモの収穫作業を行うことに決める。

●午前 堀の内畑でのサツマイモ収穫

収穫物を入れる米袋をJA田奈で購入し、堀之内の畑へ向かう。持ち物は鎌、鍬、スコップ。

- ・サツマイモの半分を収穫することとした。
- ・ツルを鎌で切り、切り離れたツルをのりめん運ぶ。そして、黒マルチをはがす。
- ・借りている畑なので、黒マルチが畑に残らないように細心の注意を払う。
- ・マルチがはがれにくいところは、スコップを使ってマルチを取り出した。次に収穫だ。
- ・ここで面白い現象に気づく。サトイモ側の畝は大きなサツマイモがたくさんあるのだが、
- ・大豆側の畝は、葉はたくさん茂っていても、イモはほとんどできていないか、小さいもののみ。
- ・補植した部分であり、「補植した時期が遅かったため、こうなったのではないか」という意見と、「隣が大豆だったので、それが作る窒素分が影響し、つるぼけしたのではないか」という意見が。
- ・残り半分のうち、つるぼけしていないほうを子ども達の収穫のために残すこととし、それ以外のサツマイモを収穫した。合計収穫量は82.6kg
- ・本日の持ち帰りは以下のとおり。
松本夫妻6kg、霧生2kg、坂本2kg、藤田1kg、高橋4kg、加藤2kg、久保2kg
- ・残りのサツマイモは、テツさん小屋に一時的に置かせてもらっている。
- ・ジャガイモの葉が出ていないところに高田家提供のアンデスレッド(16個)を植える。
- ・大根の間引き(2~3本へ)も行った。

● 昼休み 谷っ戸ん田広場にて各自食事を摂る。森田さんからなすの提供(150円で10個以上)あり。

- ・トイレへ向かった久保さんとテツさんが偶然出会い、「今日脱穀やらないか」という話に。
- ・来週のテツさんはNG、午後なら大丈夫とのこと。急きょリーダーの磯さんに連絡し、脱穀へ変更。

●午後：コシヒカリの脱穀

使用した道具：脱穀機、鳥よけで張っている糸を巻くもの、米袋、稲ワラをしぼる紐

◆14:00 - 15:30

- ・田んぼに天日干ししていたコシヒカリの脱穀を行う。まず、鳥よけ糸をはずし、脱穀開始。
- ・放出される稲ワラは、14株(7株と7株で上下の向きを変える)を紐で縛り、所定の場所へ運ぶ。
- ・稲ワラはてつさんが持ってきた竹の上に並べ、ブルーシートで覆う。
- ・ブルーシートは飛ばないように石を重しにしたひもを取り付けた。

◆15:40 - 16:10

- ・和久さんの田んぼで、天日干ししていた稲の脱穀。
- ・作業終了後、もみ（15袋）やサツマイモ、そして道具をテツさん小屋に返し、終了。
- ・終了後、加藤先生作の焼き芋をいただく。

●夕方 竹林で茗荷の収穫

- ・高橋、坂本、松本の3名で、竹林へ茗荷を取りに行く。
- ・小袋3袋程度収穫し、残っていた加藤、久保を含めた5名で山分けした。

(記録：高田 裕司)



第26回 『雨で休みのハズなのに・・・』

と き 2011年10月15日(土) 10:00 - 12:00

ところ 谷っ戸ん田

天 気 曇り、時々雨

参加者 磯、久保、松本夫妻、松下 計5名

当日、予定していた作業としては、

①コシヒカリ(ウルチ米)の籾摺り

②満月(モチ米)の脱穀

③喜寿(モチ米)の刈り取り

であったが、前日の段階で雨天作業延期を決定していた。園主了解済。

当日は予想通りの雨。風も強く、農作業不適の天候。延期にしといてとりあえずよかった。

ところが、9:00過ぎに園主から緊急連絡が入る。干していた満月が風で倒れているらしい。

田んぼ班・磯からMLにヘルプ発信し、5名が現場緊急集合した。

●作業1: 満月の稲束を移動

- ・倒れているポニーに見切りをつけ、稲束は先週までコシヒカリがかかっていた奥のポニーへ移動。
- ・石田さんのアドバイスで、竿は下段のみを使いなるべく安定をよくした。
- ・すずめよけの紐もかけておいた。
- ・倒れていたポニーはたんぼから撤去。

●作業2: 喜寿の稲起し

- ・本来であれば今週刈り入れ予定だった喜寿は、先月の台風時から2割程の稲が倒れており、ひどいところでは穂が地面についてしまっていた。
- ・久保さん提案により、倒れている稲株を4つ一まとめにし、穂の下あたりをひもで結んで無理矢理立たせるレスキュー措置を行った。
- ・やっとなだ初年度、赤米が風で倒れた時に同様に施術したとのこと。
- ・喜寿はよい感じで持ち直したように見える。
- ・来週刈る時には、今回作業で綴じたひもを外さねばならない。めんどうだが仕方ない。

●作業3: ポニーの撤去

- ・テツさんの指示により、一番奥のポニーを片付けた。
- ・田んぼを耕耘してハウレンソウを作るのだという。そのために奥のポニーがじゃまだったらしい。
- ・そんなこと今までやってなかったですね。
- ・お昼ぐらいになると、風もおさまり陽もさしてくるようになった。農作業OKのコンディション。
- ・久保さんが、このまま稲刈りやっしまおうと言い出す。
- ・でもな～、人が集らないだろうし・・・ということで本日の作業はここでおしまい。

●和久さんと会う

- ・やっとなだにレンゲの種を蒔いておいたよ、とのこと。
- ・レンゲは根粒菌の働きでチッソ固定機能を持つ肥やし植物で、田んぼのためには大変よろしい。
- ・ただ、レンゲの開花は5月中旬なので花を待っていると田起しが遅くなってしまったのだ。
- ・和久さんはハチミツのために花が欲しいんでしょ、と聞いてみたところ、花は欲しいが遅くなるので別にかまわないよ、とのことでした。
- ・レンゲの花に未練をもっているのは、和久さんではなく、写真家の久保って人だという話もあり。

●作業後にテツさんと会う

- ・刈払機の置き場所のことを伺う。
- ・広場の物置を谷っ戸ん田奥のハウス脇に移動し、そこに保管するのがよいのでは、と言われる。
- ・カギが欲しいね。合鍵を調達するか、刈払機用に小振りの物置をもうひとつ調達するかと議論。
- ・鍵の管理方法も考える必要がある。番号式の南京錠がいいかな。
- ・いずれにしても、置き場所が調整できたので刈払機購入を具体化させましょう。

(記録：磯 直行)



第27回 『雨の中の稲刈り』

と き 2011年10月22日(土) 9:30 - 17:30

ところ 谷っ戸ん田、一番上のビニールハウス内

天 気 雨のち曇り、ちよいと晴れ間

参加者 石田・ヒデ(午後)、磯、梅下早苗・日菜子・浩太郎・裕二郎、霧生(午後)、久保、坂本、佐々木利江、高田直子、高橋、松本夫妻、吉田(夕方)、園主 計13名(子供4名含む)

●午前

- ・雨の中、稲刈りを決行。
- ・段取りは、ポニーを立てる。稲刈り機を入れるので、手刈りで隅を刈る。
- ・雨の作業なので、稲を刈る人、束ねる人、運んで掛ける人とわけて効率よくやりましょう。
- ・田んぼは雨のため、かなりの水が溜まり地面も凸凹して、ネコを引くのも歩くのも大変でした。
- ・束ねた稲を運ぶも雨で水を含んでいたの、かなり重たかったです。

- ・小耳に挟んだ会話。クボタのお兄さんが「タイではこんな中で稲刈りをしますよ！」と興奮気味。
- ・テツさん「・・・」いつもの微笑み。
- ・稲刈り機が登場し、ホッとしたのも束の間、作動しなくなりました。
- ・紐がきれたとかで、我々では直せないとのこと。
- ・雨も本降りとなり、休憩をとることにしました。
- ・段取りの選択をしました。このまま続ける。早いお昼にする。
- ・お昼にすることになり、手刈りは、奥の方からすることとして、畦にある稲を掛けて午前中は終了。

●作業小屋にて各自お昼

●午後

- ・なんと雨が上がり、午前よりは、気持ちがいい。
- ・田んぼに急ぐ、クボタの上着を着たテツさんがすでに機械を修理中。
- ・動き出したら一人で全部刈ってしまいました。
- ・久保さんが小川側の畦を一箇所切り、田んぼの水を流しました。
- ・途中、テツさんが「そっちに稲を持って行かないで、こっちにポニーを立てろよ」と言いました。
- ・なるほど、その方が楽に決まっている。気がつかないんだな。こんな時・・・。
- ・機械で稲刈りが終わったあとに「こんな稲刈り初めてだよ」の捨て台詞が頭から離れません。

- ・掛けた稲からポタポタと落ちる水滴。
- ・落穂も拾ったけど、いつもと勝手が違いすぎ戸惑いました。
- ・小休止のあと、糸張り組みと籾摺り組みに分かれて、作業を開始！
- ・その後、ひたすら籾摺り機で籾摺りをしました。
- ・籾の入れすぎに注意と、たまに網をきれいにしておけることなど。
- ・米を計るのに籾一袋に対して玄米1袋22kgでした。
- ・それを11袋作ることを念頭におき、時間との格闘でした。最終の分け前は、25.5kgでした。

(記録：チャリママ・佐々木)



第28回 『もち米の脱穀とロッカーの移設』

と き 2011年10月29(土) 9:30 - 16:00

ところ 谷っ戸ん田、坂真ん中のビニールハウス内

天 気 晴れ

参加者 オズ(午前)、久保、霧生坂本、佐々木利江、松下、松本夫妻、丸山、園主 計9名

●午前 ~ 12:30 ロッカー移設

- ・園主と打ち合せ後、広場のロッカー内を片付け、谷戸奥のポンプ小屋裏に移設することを決める。
- ・松本さんの折りたたみ式のテーブルセットは、広場の土管の中に置いておくことにした。
- ・設置場所の辺りを片付け、土を均す。運搬は力仕事のため、全員が揃うのを待っていた。
- ・見かねた園主が、フォークリフトでロッカーを運んで下さった。一同、感謝！！
- ・ブロックを敷いて平行をみながらロッカーを設置。
- ・掃除後、棚を組み立て、届いていた刈払機2台と小物類を収納。刈払機の盗難防止策を話し合う。

●昼食 ~ 13:30

- ・各自お弁当と休憩。やわらかな陽ざしの中、谷戸の秋を楽しんだ。

●午後 ~ 16:00 もち米の脱穀

- ・ビバホームにて、刈払機の盗難防止用チェーンと鍵を松下さんが購入。ロッカー内に取付け安心。
- ・午前中に運んでおいた脱穀機の中に残る籾屑等の掃除後、もち米の脱穀開始。
- ・満月(1袋弱)と喜寿(7.5袋)を脱穀し、藁10束(5束づつ上下逆に重ねて)を紐で束ねた。
- ・脱穀後の籾を、ネコで作業小屋に上がる坂の途中にあるビニールハウスに運搬。
- ・最近雨が降ったり陽も短くなったことから、「ハウスに拵げ湿気を飛ばしたほうがよい」と園主からのアドバイスあり。
- ・翌週の籾摺りまで、ハウスで乾燥することにした。時々、掻き混ぜたほうがよいとのこと。
- ・ビニールシートを引き、籾を出来るだけ重ならないように広げて干した。
- ・並行して、脱穀機の掃除、解体したポニーの足の部分の泥をブラシで落とす作業をして終了。
- ・一度解散。畑作業が出来なかったため、可能な人が畑を視察することになった。
- ・白菜、大根、カブが成長しており、間引きが必要と思われた。
- ・その場の4人でやるよりも翌週にしようということになり(間引き菜のお楽しみもあるので)、カブと白菜を少しだけ間引きした。
- ・カブはすでに大きく育っているものもあるので、翌週、収穫できるものもありそう。
- ・白菜は、虫食いがあり、よくみるとカタツムリがついていたりして、少しは捕ったが心配な状態。



(記録：霧生)

ロッカー移設前と移設後。園主によるフォークリフト出動があり一気に完了。



第29回 『畑の作業、もち米の粃摺り』

と き 2011年11月5日(土) 9:30 - 16:30

ところ 堀の内畑、テツさんのビニールハウス

天 気 うす曇り

参加者 石田・ヒデ、加藤(10時半から)、久保、佐々木利江・優聖、藤田、松本夫妻
計7名(子供2名含む)

●午前

- ・松本洋子さんがテツさんと連絡し、粃はまだ乾いてないから、午前中に粃摺りは無理とのこと。
- ・急遽予定を変更。午前畑の作業とし、粃を熊手でかきまわしてから全員堀の内へ。
- ・刈り払い機の試運転も延期となる。

- ・大根と白菜の間引き。同じ場所からは1本だけにしてあとは抜いた。
- ・カブの間引きというより大きくなったものを一部収穫。
- ・ジャガイモの芽かき。ひと株からたくさん出ているものは、3本くらいを残しあとは抜いた。
- ・サツマイモ収穫。11月中はまだ収穫できそうなので、10株程度を掘った(21.8kg)。
- ・なぜか枝分かれが少なく、1個ずつが大きい。最大で3kgあった。
- ・収穫しない株は保温のためつるを切らないでおいた。
- ・サトイモ収穫。10株程度を掘った(16.5kg)。以前より大きく育っている。
- ・種を谷戸に置いてきたのでカブと大根を分け、取りあえず、谷っ戸ん田に戻ることにした。



●昼食

- ・谷戸の雑木林へ戻り、各自昼食。加藤先生よりお煎餅のお土産をいただく。

●午後

- ・広げて置いた喜寿と満月を袋に入れて粃摺り機へ運び、粃摺り開始。
- ・2班に分かれ、粃摺りは松本夫妻、久保、佐々木が行った。喜寿が150kg、満月が20kg。
- ・満月の20kgのうち3kgを種粃として残すことにして、本年の田んぼ作業終了。
- ・畑へ石田、加藤、藤田プラス子供2人で行き、種まきを行った。
- ・蒔く時期が遅れているので、寒さにあつてだめになる可能性があるとのこと。
- ・サツマイモの跡に畝を作り、奥の方に野沢菜5mと手前にタアサイを15mほど各2畝ずつ。
- ・ジャガイモの奥にアスパラ菜と雪白体菜を、各5mで2畝ずつ種を蒔いた。
- ・野沢菜は筋蒔き、その他はばら蒔きをし、上から踏んで沈圧した。
- ・収穫したサトイモは11区画で分け、日持ちがするので欠席の方の分はテツさんの小屋に。

(記録：藤田)



第30回 『大豆・サツマイモの収穫、もち米分配』

と き 2011年11月12日(土) 9:30 - 17:00

ところ 谷っ戸ん田、堀の内畑、テツさん作業小屋

天 気 秋晴れ

参加者 石田・ヒデ、磯(午前)、梅下早苗・日菜子・浩太郎・裕二郎・ちひろ(午後)、加藤、霧生、久保、坂本(午前)、佐々木利江・優聖、高田直子、松本洋子、丸山(午前)、園主計18名(子供6名含む)

前日の冷たい雨とは一転、11月とは思えない暖かなスタート。作業開始前30分ほどミーティング。

《もち米の分配について》

- ・餅つきは谷っ戸ん田のもち米で、昨年通り30kg。満月17kg+喜寿13kg。残りは11組で分ける。

《サツマイモ・サトイモの分配について》

- ・有料配布とし、どちらもキロ100円とする(市価の1/3~1/5)。
- ・今までの配布分と今後の分をあわせ、会計に支払う。徴収方法は後日連絡。
- ・配布済のキロ数は、忘れないようノートに記録する。ノートは作業小屋に置いて各自記入する。

●午前 堀の内畑で大豆の収穫(麻ヒモ、カマ)

- ・テツさんにダンプを出してもらえることを確認したうえで、全員畑へ移動。
- ・ダンプは大豆を谷っ戸ん田に運ぶために必要。急な申し出を受けてくださったテツさんに感謝!
- ・大豆を株ごと掘り起こし、数株を麻ヒモで縛る。ここひと工夫。縛ったヒモの片方を長めにする。
- ・ポニーに干す時に二株を取り、お互い長い方のヒモを結び、ポニーにかけやすくするため。
- ・黄大豆と黒大豆が混ざらないように気をつけながらの収穫。黄4列、黒2列。
- ・途中からテツさんがダンプに乗って登場。こちらはまだ半分も終わっていない状況。
- ・テツさんをお待たせするわけにはいかないので、みんなのピッチが上がる。
- ・サツマイモ脇の1列も全て収穫し、ダンプに積み込み終了したのは12:30。
- ・この間、一度の休憩もせず、子供たちはお腹をすかせ(大人たちも)一心不乱に作業したのでした。

●お昼 各自谷っ戸ん田にて 半袖でもいいくらいの陽気

●午後

- ・大豆を干すためのポニーを小道に平行に二列設置(もち米に使用した物が田んぼにおいてあった)。
- ・10月の強風でポニーが倒れたのは、小道に垂直に立てたため。谷戸に吹く風は、小道沿いになる。
- ・テツさんが来てくれてダンプから大豆をおろす。ここで長い方のヒモを結び、ポニーにかけた。
- ・手前が黄大豆、奥が黒大豆。収穫量:黄大豆266株、黒大豆124株(By久保調べ)。
- ・もち米分配と畑と二手に別れる。
- ・餅つき用30kgを除いた残りを11組に分配(一組喜寿12.5kg)。米袋はテツさんが用意してくれた。
- ・堀の内畑でサツマイモの収穫(カマ、スコップ、米袋)。
- ・カマで茎を切り落とし、黒ビニールマルチをはがす(畑に残らないようにスコップで掘り起こす)。
- ・お芋を傷つけないようスコップを入れ、後は手で掘って収穫。子供たちがどんどん掘ってくれる!
- ・米袋4袋程度の収穫。今年のサツマイモは終了。子供たちはお気に入りのお芋を持ち帰る(計量済)。
- ・カブは食べごろのを少し収穫。ここでもち米班合流。
- ・大場さんの畑で大根とターサイを収穫・購入(@100/個)。
- ・テツさんの作業小屋にサツマイモを運び、道具を洗って本日の作業終了。

※梅下さんから長崎土産のお菓子をいただきました。

(記録:高田直子)



第31回 『作業小屋とハウス整理』

と き 2011年11月19日(土) 9:30 - 12:20

ところ テツさんの作業小屋、ハウス

天 気 雨

参加者 石田、磯、霧生、高橋、藤田、松下 計5名

●9:40 - 10:30

- ・雨が本降りなので畑作業は無理と判断し、作業小屋の掃除をすることにした。
- ・収穫済のサツマイモの袋やモチ米の袋の整頓。
- ・箱に入れて保管していたビニール袋や箸、菓子類を必要品、不要品に仕分けし、不用品は廃棄。

●10:30 - 11:30

- ・テツさんが顔を出したので、本日の作業を相談した結果、ハウス内のキュウリ畝整理作業に。
- ・延びたツルを取り払い、根や雑草を抜いて、ハウスの隅にひとまとめに集めた。
- ・明日以降、晴れたら捨てていただけるとのことです。
- ・ハウスでの野菜栽培は、雨が降っても作業ができる一方、水やりの手間がかかりそうだと思っていた。
- ・しかし、本日、キュウリ畝のマルチングを剥がすと、中にビニールチューブで配水する仕掛けになっていて、なるほどプロはこのように省力化して農業をおこなっているのか？と妙に感心。
- ・キュウリの支え方も、支柱でなく、ビニール紐を上から垂らしてツルを縛って支え、収穫後は紐を上片付け、来年また使うという合理的で且つコストも安い仕掛けなので、なるほどと思いました。

●11:30 - 12:10

- ・霧生さんがテツさんと会話して、作業小屋脇に飼っているウズラの小屋を清掃。
- ・「ウズラが小屋内に卵を一杯産んでいるが、そのままになっているので、全ての卵を回収すれば、今後は卵が新しいことが分かる」とのことです。希望者がいれば卵を分けていただけるとのことです。
- ・雨が、ますますひどくなり、午後から参加する予定であったメンバーに中止案内をメールして解散。

追記①

- ・収穫物の持ち帰り記録用として、「赤いA5版ノート」をテツさんの作業小屋に用意してあります。各自記入をお願いします。

追記②

- ・石田さんの味噌の表面に出来るカビについてレクチャーの報告が、藤田さんから、ありました。
- ・白いカビはアミノ酸の一種で食べてもOK。ピンクや青いカビはその部分を取り除いた方がよい。くれぐれも全部をすてる必要はないとのことです。
- ・インターネットで得た情報では、カビのような白い斑点はチロシン(アミノ酸)で、重しのかからない縁などできる白いカビは酸膜酵母だそうです。

(記録：松下)



第32回 『里芋など収穫、畑の片付け』

と き 2011年11月26日(土) 9:30 - 16:30

ところ 堀の内畑

天 気 晴れ

参加者 石田・ヒデ、磯(午後)、梅下早苗・日菜子・浩太郎・裕二郎、霧生(午前)、久保、佐々木康志(午前)、佐々木眞佐子・美紗(午前)、高田直子、高橋、藤田(午前)、松本純(午前) 計16名(子供5名含む)

気持ちよく晴れわたった晩秋の空の下、堀の内の畑で里芋を収穫した。

準備した器具备品：

スコップ、クワ、鎌、熊手、はかり、購入記録帳、収穫用クラフト袋20枚(農協で購入、45円/枚)

●収穫 10:00 - 12:15

◆里芋 80kg

- ・マルチを畑に残さないように丁寧にとってから、鎌で茎を切り、スコップで掘る。
- ・空中から放り投げて土を適度に落とす。白い根を取る。芋をばらし、親芋を残す。
- ・芋と親芋を袋に収納。

◆エビ芋 22.5kg

- ・想像したより小ぶりでエビぞっていない。

◆ジャガイモ ニシユタカ 12kg

- ・アンデスレッドはもう少し待つことにした。

◆かぶ 15個

- ・皆で分配

●大場さんの野菜即売 12:30 - 12:50

- ・手作りこんにやく(芋から直接製造)、タアサイ、春菊、ブロッコリー、白菜
- ・プロ農家の味はいかがでしたか？

●谷っ戸ん田広場で昼食 13:10~14:00

- ・佐々木チャリママ農園からカリフラワー(4個)、キャベツ(5個)の差し入れ。
- ・和久さんの蜂蜜即売。
- ・お土産：霧生さんの宮城白石ズンダゴーフル、久保さんの函館トラピスチヌバター飴

●午後の活動 14:30 - 16:30

- ・堀の内畑の片付け。大豆収穫跡に散らばっている枯れ茎などを熊手で掃き清める。
- ・トラクターで耕運、整地。畑のあぜに積んでいたサツマイモの蔓が回転刃に絡まり、その除去作業。
- ・上の作業小屋で道具を片付けて終了(16:30)。
- ・ホームセンターで刈払い機関連品を購入。

(記録：Hi-Lucky takahashi)



第33回 『話し合い、大豆の移動』

と き 2011年12月3日(土) 9:30 - 15:30

ところ テツさん納屋・谷っ戸ん田・納屋手前のビニールハウス

天 気 雨のち晴れ

参加者 石田・ヒデ、磯(午前)、梅下早苗・日菜子・浩太郎・裕二郎、加藤、霧生、久保、
佐々木利江、高田裕司(午前)、高田直子、藤田、松下 計15名(子供4名含む)

●午前

- ・雨が強く降っており、屋外での作業はきびしい。
- ・じゃがいも・里芋・さつまいもの分配、納屋の整理整頓をしようか思っていたところ、園主が登場。
- ・作業の進め方について相談。①雨の中、大豆をハウスに移動 ②現場でさやをしごいて豆を取り出す ③日曜に作業をする などいくつかの案が提示される。
- ・結果、午前中は今後の活動について話し合い、午後雨が止んだら作業することになった。
- ・たたみひもで大束にして移動した方が効率がよいとの園主のアドバイスもあった。

《話し合いの内容》

1. 当面の活動予定

- ①12月24日(土)の餅つきについて:担当(松本、霧生)
 - ・当日必要なものは別途指示あり。
 - ・23日の準備、集合時間・集まれる人・持ち寄る道具なども連絡指示。
 - ・同日に味噌の分配も行う。担当(佐々木、藤田)
- ②今年度の味噌作りは1月以降。道具類はどうするか。
- ③キムチは白菜の収穫が難しいのでカクテキに変更。1月以降。
- ④沢庵については園主の意向を待つ。

2. 来年度の活動

◆合意事項

- ・1月28日に総会を行い、各班の反省と来年度の方向性。班体制の入れ替え」を話し合う。
- ・したがって、それまでに各班で話し合い、1/28に内容を報告できるようにしておく。
- ・来年度から横浜市からテツさんへの補助金(約7万円)がなくなる。
- ・谷っ戸ん田からテツさんへの支払額が多くなることも想定される。
- ・預金残高(横浜市から別の補助金をテツさんに支払っているが、活動主体である谷っ戸ん田へテツさんが拠出してくれたものがほとんどを占める)から支出し、会費の増額は行わない。
- ・高田さんが森さんに、補助金がなくなった後の対応を問い合わせることになりました。

◆その他の主な意見

- ・堀の内畑をどうするか?テツさんの畑を貸していただけるのか。
 - テツさんの意向は。大場さんの意向は。
 - 久保さんがテツさんの意向を確認したが、かなり厳しい意見が出された様子。メンバーが自戒すべき点多そう。後日紹介されるでしょう。
 - 大場さんには石田さんから「来年やめたらどうなの」的な話をする予定。
- ・来年度の区画は?。石田さんが来年は一人で区画を持ちたい意向を示す。
 - グリーンはどうするかを石田さんから問い合わせる予定。
- ・田んぼに低農薬散布を考え、省力化したらどうか?
 - 磯さんから「田んぼを増やしたい。そのためには省力化が必要」との提案あり。
 - 「草取りが大好きだあ」「子どもが安心して田んぼに入れるように」「現状では無農薬でやれる」などの意見が出される。
 - 増収・省力化は今後検討していく課題かも。

●昼食 各自、お弁当。雨がようやく上がり、明るくなる。

●午後

- ・休憩後、田んぼに向かう。
- ・このところの雨で大豆がふやけて田んぼの水たまりのあちこちにこぼれている。悲しい。
- ・さやから今にも落ちそうなものも多い。
- ・シートを畦に敷き、その上で2x5束ずつ一まとめに束ね、たたみ紐で縛る。約30の大束ができた。
- ・園主の軽トラでビニールハウスに運ぶ。3往復で完了。
- ・ビニールハウスにシートを敷き、小さい束を乾燥しやすいように立てて並べる。
- ・田んぼの後かたづけも同時進行。作業終了は2時半。
- ・さつまいも・里芋を各自持ち帰り。ジャガイモは500グラムずつ。納屋の清掃後、解散。

(記録：加藤 彰)



第34回 『大豆の脱穀』

と き 2011年12月10日(土) 9:30 - 16:30

ところ 小屋の下のハウス

天 気 晴れ

参加者 石田・ヒデ、磯、梅下早苗・日菜子・浩太郎・裕二郎、久保、坂本、佐々木利江・優聖、高橋、高田直子、松本純 計13名(子供5名含む)

●午前

- ・先週、雨の中ハウスに移動した大豆の脱穀を手作業にて行う。
- ・大豆は、ハウスの中ブルーシートの上に、数本の株にまとめて逆さまに立てられていた。
- ・奥に黒大豆、手前に白大豆。量的には、黒1・白2といったところ。
- ・大豆はいい感じに乾燥していた。
- ・ハウス雨漏りのためブルーシート上の所々に水たまりができており、一部は水びたしの状態。
- ・しかし、そんなことはお構い無しにハウス内で人力脱穀作業を開始。
- ・作業は大まかに3分隊で進行。
A. 豆を叩いて脱穀する係 B. Aの豆殻から取り残し分を回収する係 C. 豆殻を片付ける係
- ・豆を叩く棒として、松本さんが金網の切れっ端みたいなものを使い出す。こんなやつ 
- ・これがけっこう使える。豆の鞘をマルチポイントで叩くので脱穀効率上がる。
- ・同じようなやつを探し出してきて、高橋さん、磯もばしばし叩く。黙々と作業進捗。
- ・脱穀後の豆とゴミをより分けるために箕やざるを使ったが、あまりうまくより分けできない。
- ・やはり唐箕が必要。
- ・しょうがないので、大豆は、大きなゴミだけは取り除くが未分別状態で一旦ダンボール箱に回収。
- ・石田さんが豆殻で焼き芋を作り出す。楽しみができたので少し張り合いがでてきた。
- ・そうこうしているうちに午前中が終了。完了率6割ぐらい。

●お昼

- ・各自コンビニなどでお弁当を調達。風が冷たいので小屋で食べる人多い。
- ・石田さんから焼き芋をいただく。

●午後 畑班と大豆脱穀班に分かれる

◆畑班

- ・子どもたち5人と石田、梅下早苗、佐々木利江、高田が堀の内畑へ。
- ・一部残っているジャガイモを堀る。アンデスレッドを収穫するはずが、ほとんど成長していない。
- ・小粒数個のみ収穫。その代わり掘り残しのニシュタカが数株あり、合計7キロの収穫となった。
- ・大根の土寄せをする。大きくなったものを5本ほど収穫。参加者で分けた。
- ・収穫は子どもたちがほとんどやってくれた。ヒデ&浩は落とし穴作りに精を出した。
- ・往復1時間ほどの作業。スコップ、鍬を洗って、大豆班と合流。

◆大豆脱穀班

- ・人数が減った分進捗がにぶるが、なんとか脱穀作業完遂。
- ・今日は唐箕が手配できなかったため、豆はまだ葉っぱくずなどにまみれている状態。
- ・少し湿り気も残っており、このまま保管すると腐ってしまうため再度ブルーシート上に広げて干す。
- ・ハトに食べられないようネットをかけてあります(園主了解済み)。
- ・作業後にテツさんに会うことができ、次週、電動唐箕を貸してもらえることになる。
- ・機材清掃、ブルーシートを洗浄し、16:30ごろ作業終了。

(記録: 磯、高田 直子)



第35回 『大豆の脱穀、雑木林の下草刈り』

と き 2011年12月17日(土) 9:30 - 15:30

ところ 納屋手前のビニールハウス・テツさん納屋・雑木林・堀の内の畑

天 気 晴れ

参加者 石田・ヒデ、磯、加藤(午前)、霧生、久保、高田夫妻(午前)、高橋、松本洋子(午前)
計11名(子供1名含む)

●午前

- ・先週、手作業で脱穀してハウスで乾燥させていた大豆。
 - ・約1時間かけて園主所有の選別機(カンリウトーミ)を通し、小枝や泥などを吹き飛ばして選別。
 - ・この時点で、白大豆が17kg、黒大豆が18kg。
 - ・今後は、大豆の状態をみながらの手作業の選別をしていくことになる。
 - ・白黒各3kg程度は翌年の種まき用に確保しておくことを忘れないようにしなければならない。
 - ・再び大豆をハウスのビニールシートにひろげ網をかけ、もう少し乾燥させておくことにした。
 - ・納屋に置かせていただいていたイモ類。本格的な寒さで傷まぬよう、日光にあて乾燥させた。
 - ・いつまでも芋袋で納屋を占領するわけにはいかないので、次回には、来年の植付け用だけは残して、皆で分配して片付ける必要がある。
 - ・サツマ芋3袋(大、中、小)、里芋1袋、里芋親3袋、えび芋1袋、えび芋親1袋。
 - ・餅つきに備え、漬物用樽を洗う。
-
- ・今年度初めての雑木林の整備。燃料も調達し、刈り払い機の記念すべき始動日でもある。
 - ・倒木や小枝を集める係とそれをネコで運ぶ係、チェーンソーで倒木を小さくカットしていく係、刈り払い機で下草を刈っていく係と分担して作業を進める。
 - ・付け火等の心配のないよう、運んだものはできるだけ田んぼに集めておくことになった。

●昼食

- ・各自、お弁当。
- ・な～に谷っ戸ん田の広場は、落ち葉がしきつめられ終わりかけだが紅葉がきれいだった。
- ・子どもの参加が少なかったので、ヒデ君は少し淋しそう。

●午後

- ・下草払いを再開。約1時間の作業後、餅つき用の薪をネコと車で納屋の前に運搬して終了とする。
- ・刈り払い機を片付けに谷戸の奥に行くと、紅葉がみごとだった。しばし谷戸の初冬の風景を楽しむ。
- ・近くで白菜の収穫をしていた方から、寒さ除けの白菜を紐でしばる作業を今の時期にやっておかなければ芽が傷むよ・・・と伺い、堀の内に向かうことにする。
- ・昔はもっと寒かったので、白菜はまとめて収穫し納屋等で保管していたが、最近は数回に分け収穫するようになったそうだ。こうしたお話に暖冬を実感する。
- ・堀の内の畑の白菜の内、6個くらいは葉がまいている様子。
- ・それらの頭の近くを藁でしばり、大根に軽く土寄せをした。
- ・11月日に種を蒔いたターサイ等は、発芽はしたものの中々大きくなりずに心配だ。
- ・終了は3時半頃。クワ等を片付けて解散する。

(記録：霧生)



番外編 『忘年会』

と き 2011年12月18日(日) 11:30~15:00

ところ ナチュラルレ・ポーノ@藤が丘

天 気 晴れ

参加者 磯、梅下早苗、加藤、霧生、久保、佐々木利江、高田夫妻、高橋、松本夫婦、福德 計12名





番外編 『もちつき準備』

と き 2011年12月23日(金) 13:00 - 16:00

と ころ テツさんの上の小屋周辺

天 気 晴れ

参加者 霧生、高田直子、高橋、藤田、松下、松本夫婦、園主 計8名

- ・ 干していた大豆と黒豆の袋詰め、及びハウス内の片付け・清掃を行う。
- ・ もち米を研ぐところ米袋を開いたところ、精米していないことに気付き、高橋さんと松本純さんとで田奈農協へ。
- ・ 他のメンバーはその間に米研ぎの準備を行う。テツさんにお借りする石臼も洗う。
- ・ 精米後、もち米研ぎ開始。満月 17.5kg と喜寿 2 種(谷っ戸ん田米と種用に購入していた米)の 3 種類を別々に研ぎ、それぞれポリ桶に水を張って漬け置く作業を行う。
- ・ 米研ぎに使用した用具を片付け、休憩。
- ・ 藤田さんより洋ナシとチョコ、松本さんよりビスケットの差入れ有り。
- ・ 里芋、えび芋の来年用の種芋選別他を霧生、高橋、藤田、松下が行う。
- ・ 高田、松本夫婦が餅つき当日の必要品の買い出しを行う。買い出し組はそのまま帰宅。
- ・ 種芋選別組は、来年の植え付け用に里芋(土だれ 50 個)とエビ芋(親芋 20 個、子芋 30 個)を選別して解散。
- ・ 親芋は屋外では寒さをのりきれないので藤田さんが里芋を、霧生がエビ芋を自宅に持ち帰り来年5月まで保管することになった。



(記録：霧生)

番外編 『餅つき、収穫物の配分』

と き 2011年12月24日(土) 8:00 - 15:30

ところ テツさん小屋・小屋向かいの空き地、堀の内畑

天 気 晴れ

参加者 石田・ヒデ、磯、梅下早苗・日菜子・浩太郎・裕二郎、加藤、霧生、久保、坂本、
佐々木夫妻・優聖、高田夫妻、高橋、藤田、松下、松本夫妻、百崎恵美・まる
ゲスト：山本(高田直子の友人)、園主、和久さん 計26名(子供6名含む)

●午前

- ・ 8時に小屋集合。机配置、小屋整理、かまど2つの用意と火熾し(先週雑木林で用意した薪)。
- ・ 霧生、高田夫妻が堀の内畑より白菜2個と大根5個を収穫し持参。
- ・ 園主が用意したせいろは4個。木の取っ手のせいろには喜寿を、そうでないせいろには満月をセット。一つのせいろにザル2杯分のもち米を入れ、真ん中をくぼませることで作業開始。
- ・ 一つ目のせいろは、いったん石臼に蒸かしたもち米を移したのだが、生米が残っていた。これは、蒸かす前にもち米の真ん中をくぼませるのではなく、蟻塚のように急な斜面にしてしまったことが原因と断定。以後、真ん中を窪ませることを再確認し作業再開。
- ・ 石臼にもち米を移した後は、2つの杵を用いてまずこねる作業を行い、米粒が見えなくなる位になってからもちつきを開始。さすがに5年目となると皆さん無駄な力を使わないつきかたを習得している。初めて石臼を使ったが、仕上がりの時間が早く、また、きめが細かくなったような感じ。
- ・ できあがったもちは、二つに切り分けて机に移し伸し餅を作った。もち取り粉を板の上に広げ、途中からそばうち棒(テツさんのもの)を用い成形し、伸し餅用ビニール袋に入れて小屋の奥に広げる。
- ・ 試食用もちを作る。大根おろし、納豆、あんかけ、きなこの4種類。温かいもちはとても美味しい。
- ・ もちつきの作業は11:30に終了(もちつき開始は9時ごろ)。
- ・ もち米は、満月が17.5kg、喜寿が12.5kg(谷っ戸ん田産と購入したものあり)を用い、12臼のもちをついた。2臼は試食用。10臼は伸し餅になり20枚できあがった。

●お昼 12:00に開始。松本洋子さんの音頭で乾杯。

- ・ メニューは、のり餅、きなこ餅、納豆餅、あんころ餅、からみ餅、野菜汁、大根の塩昆布あえ、大根のホタテサラダを作る。
- ・ 野菜汁は、里芋、大根、大根葉、白菜、人参、えのきだけ、油揚げ、豚肉、豚皮(高橋さん提供：タイ産)、他。
- ・ 持ち込みおよびご提供いただいたものは以下のとおり。
 - ✓ 百崎さん → 鶏手羽中の唐揚げ
 - ✓ 佐々木夫妻 → 自家製キムチ、市田柿、サンドイッチ
 - ✓ 和久さん → えぞ鹿肉、スタミナ源(十和田産焼肉のたれ)
 - ✓ 久保さん → 函館のイカ飯
 - ✓ 霧生さん → ホタテの缶詰(大根との和え物用)
 - ✓ 松本さん → スモークチキン(日大農獣医学部製造)
 - ✓ 松下さん → 花御所柿(鳥取県産日本一の甘柿といわれている)、みかん、ウコン
 - ✓ 坂本さん → 熊本ミルクパイ

●収穫物の配分他

- ・ 昼食後、畑での収穫物の配分を行う。高橋さんの号令のもとで、小屋前で、里芋(親イモ含む)とさつまいも、じゃがいもの販売(たたき売り?)が始まる。
- ・ 親イモは無料配分。その他のいも類も格安販売。石田さん、梅下さんの大量購入もあり、見事完売。
- ・ もちつき参加者(大人のみ)から一人500円徴収。野菜等の購入費用との差額は、テツさんへのお礼

のお菓子代に充当することで皆の了解を得る。

- ・ 伸し餅は、11 区画分を無料で提供。和久さんにも無料提供。テツさんにも無料提供を申し出るが辞退される。残りの 8 枚を 1 枚 500 円で販売。
- ・ 小屋の荷物を整理し、店主の了解をいただいた大豆（黒豆、黄豆）を除き、谷っ戸ん田の物置へ移動（コメ袋、コンロ、料理用品、はかり他）。
- ・ テツさんが戻ったところで、あいさつをして解散（15:30 ごろ）。
- ・ 5 回目の餅つきで、作業スピードが速くなった。

（記録：高田 裕司）



第36回 『味噌の袋詰め、落葉かき』

と き：2012年1月7日（土） 9:30 - 15:30

ところ：作業小屋、雑木林尾根

天 気：晴れ

参加者：石田・ヒデ、梅下早苗・日菜子・浩太郎・裕二郎、加藤（午前）、霧生、佐々木夫妻・優聖、高田夫妻、高橋（午前）、松下（午前）、松本夫妻、丸山 計18名(子ども5名含む)

1. 味噌を袋に小分けする作業

- ・ 収納小屋から7つの樽を小屋に運ぶ。テーブルを3台ならべ新聞紙を敷き作業台とする。
- ・ 味噌上部の塩を除き袋に入れる。今年の味噌製造に再利用。
- ・ 表層部の変色している部分をへらで取り除く。埋めて土に還す。
- ・ 味を均一にするためかき混ぜる。ゴム手袋をしてジップロックに2kg（もしくは1kg）ずつ詰める。
- ・ 空気を抜いて口を閉じる。樽を洗う。
- ・ 器具備品：ジップロック大、油性ペン、はかり、ゴム手袋、へら3個、ふきん、キッチンペーパー

●味噌の出来高表

	製造日	豆	麴/糶	入重量(kg)	袋数	端数(kg)	総重量(kg)
1	2011年2月5日	白	麦	2	9	0.0	18.0
2	2011年2月5日	白	麦+米	2	10	0.2	20.2
3	2011年2月5日	白	米	2	10	0.6	20.6
4	2011年2月12日	白	米	2	13	1.0	27.0
5	2011年3月19日	黒	麦	1	13	0.4	13.4
6	2011年3月19日	黒	米	2	10	0.2	20.2
7	2011年3月19日	黒	麦+米	1	17	0.0	17.0
計					82	2.4	136.4

4と6は園主と機械屋さん用に2袋（計4袋）ずつお礼する

7はカビ臭あり、無料配布

kg当たり200円で販売

有料配布の量は、2kg×48袋++kg×13袋=109kg

2. 裏山（雑木林尾根）の落ち葉かき

- ・ 石田、高田裕司、佐々木康志、松下、松本純で、裏山尾根の高圧線から西側へ向けて落葉かき開始。
- ・ 石田さんが刈払機で笹等を刈り、他のメンバーが熊手で落葉を集め、尾根沿いに落葉の山を築いた。
- ・ 立派に伸びて木に絡んだ藤蔓を上記メンバー全員で、難儀しながら綱引き状態で引きちぎった。
- ・ その蔓で石田さんがリースを作成し写真集に掲載。
- ・ 今回の落葉は乾燥していて発酵しないので、降雨後の時に再度積上げ直す必要あり。

3. 大豆の選別

- ・ 落葉かき以外の午後に残ったメンバーで大豆の選別を行う。
- ・ 取敢えず、白大豆から開始。落葉かきメンバーが上がって来るまで行った。15時に途中ながら終了。

特記事項

- ・ 15時頃、園主が小屋前に来られたので新年のご挨拶。
- ・ 2種類の味噌をお渡しして「今年もまた2月に味噌作りをさせていただきます」と伝えました。

（記録：高橋、松本）



第37回 『カクテキ作りと落ち葉かき、大豆の仕分け等』

と き：2012年1月14日（土） 9:30 - 15:00

ところ：作業小屋、雑木林尾根

天 気：晴れ

参加者：石田・ヒデ、磯、梅下早苗・日菜子・浩太郎・裕二郎、加藤、霧生、佐々木利江・優聖、高田直子、高橋（午前）、松本純 計14名（子ども5名含む）

【午前】

- ・堀の内畑から大根約30本収穫。倉庫から必要な道具を作業小屋へ運び入れてカクテキ作りを開始。
- ・チャリママ講師のかけ声で作業は順調に進み、午前中に作業過程④まで終了。
- ・並行し、茨城の実家から届いたそば粉で磯さんが「そばがき」を作っていたき、みなでご馳走に。
- ・刻みねぎとゆずの醤油味と、子ども用にはこしあんをのばしたお汁粉風の2種。
- ・ユウ君がそばがきの虜に。やさしい味わいで美味！皆で分けて食べればさらに美味し～い！
- ・差し入れの白菜の漬物も美味しく頂きました。
- ・カクテキ作りが一段落し石田・松本・加藤・磯の4名は雑木林尾根に移動。落葉かきを約1時間。

【昼休み】

- ・11:40頃から少し早目の昼食。各自、お弁当やコンビニで調達。

【午後】

- ・男性陣は落ち葉かき、女性陣はカクテキ作りの仕上げ。
- ・大根に調味料を混ぜていく過程で、唐辛子の量もすごいので手袋を使用。
- ・講師は手の感覚で様子を見るのか？職人のように手で混ぜていました。すご～い！！（色もスゴイ）
- ・カクテキ作りは、13時半頃に袋詰めまで終了。
- ・子どもも手伝い、混ぜたり袋詰めをしたりと。
- ・昔の大家族や地域の仲間達は、日々このような感じなのかな～と今、このような体験ができ嬉しい。
- ・カクテキチームはそのまま白大豆の選別開始。選別には樽の蓋が非常に都合よいことを確信。
- ・休憩時にカクテキの樽に残った調味料に大根の残りを切ったものを混ぜあわせ即席のカクテキ？と甘いそばがきをいただきました。
- ・14時過ぎから落ち葉かきは加藤さん離脱。高田さん、佐々木さんが参加。
- ・谷っ戸ん田広場上の柴山20haぐらいの範囲（先週実施分の隣りのエリア）を整備。
- ・倒木撤去、がさやぶの刈払い、落ち葉集約。刈払機2丁、のこなたセット、熊手2丁を使用。
- ・背の高い篠等はほぼきれいに出来た。かき集めた落ち葉等は山にしてそのまま残してある。
- ・醗酵促進のため一度雨に当たった後で堆肥置き場に下ろす予定。
→堆肥置き場に下ろす時は、古い堆肥の上には積まずに、新たに山を作って分けて積むこと。
- ・選別が完了したのは白大豆半分くらい。
- ・15時頃には作業終了。完成したカクテキを分配。1Kg500円 一人1～1.5Kg。
- ・希望者が大根約15本、巻いていない白菜2つを持ち帰り。
- ・石田さんがテツさんのところへカクテキ（500g）を届けました。

※カクテキ作り

《材料》

- ① 大根 16本（堀の内の畑より調達した小ぶりなもの。大きなものなら8本）
- ② にんにく 400g（テツさんより8個購入） / ③ 万能ねぎ 8束 / ④ にら 8束
- ⑤ しょうが 80g / ⑥ 赤唐辛子 8個（高田農園産）

《調味料》

- ① 魚エキス 400cc / ② アミの塩辛 240g
- ③ 唐辛子粉 800g（唐辛子工場謹製 250g入り：中×1、細×2 他松本さん提供の韓国製 100g）
- ④ あら塩 400g（今回は700g使用） / ⑤ 昆布だし・大さじ4 / ⑥ 砂糖 240g

《準備するもの》

- ① まな板と包丁×2+調理用ハサミ / ② すりおろし器 / ③ ボール大×3 / ④ 樽×2
⑤ 密封用ジプロック大 / ⑥ ビニール袋 他：ふきん、キッチンペーパー、ビニール手袋、はかり等

《作り方》

- ① 葉の部分をカットして大根を洗う（樽使用）。
- ② 大根を皮つきのまま約2~3cmの角切りにし、樽に入れて塩400gをふり約1時間おく。
- ③ ネギ、にらを3~4cmカットし、にんにくとしょうがをすりおろす（ボール使用）。
- ④ 3種類の唐辛子粉をビニール袋に入れて混ぜ、赤唐辛子は種をとり2~3ミリの輪切りカット。
- ⑤ 塩をふった大根を水で洗い、フキンで水気をとったところに唐辛子粉約1/4量を投入し色付け。
- ⑥ 塩300gを含む調味料と③を樽に入れてよく混ぜあわせる。
- ⑦ ⑤の大根の樽に⑥を投入してよく混ぜ合わせて完成。
- ⑧ 器に密閉。ジプロックを使用。

※レシピでは塩400gとあったが、一旦塩を洗ったので、味付け時にも300g塩を入れた。

※当日は常温、翌日から冷蔵庫へ。食べごろは3日目から。

※完成品：1K×11袋、500g×8袋 計15K

※次回の参考にザルがあるとよかったとの意見がありました。

※そばがき作り

《材料》（一人前）

- ① そば粉75g / ② 水200g

《調味料》

醤油+薬味（ネギ、わさび、ゆず等）または、お汁粉用にあんこ等

《準備するもの》

- ① テフロン加工フライパン / ② カセットコンロ / ③ ペットボトルに目盛を付けた計量ボトル
④ 漬けタレ用のお皿 / ⑤ 木ベラ等

《作り方》

- ・フライパンの中で粉を水によく溶かし、火を入れて固まるまで木ベラでまぜていく。
- ・粘り気がでてお団子ができるくらいになったら完成。
- ・お汁粉にする場合には、上記をあんこをといた汁に団子状に丸めて投入。
- ・本来はボールにそば粉・お湯を入れて練ったものを湯がくが、このほうが作り易く無駄がない。

（記録：梅下、磯、霧生）



第38回 『大豆の仕分け』

と き：2012年1月21日（土） 9:30 - 13:30

ところ：作業小屋

天 気：雨

参加者：石田・ヒデ、梅下早苗・日菜子・浩太郎・裕二郎、加藤、霧生、久保、佐々木利江・優聖、坂本、高田直子、松本夫妻 計15名（子ども5名含む）

【午前】

- ・大豆の仕分け作業を作業小屋で行う。
- ・子ども達の集中力はそんなに続かなかった。
- ・雨模様の外でもあまり遊べず、かわいそう・・・。
- ・しかしながら、作業は、順調に進み午前中で黒大豆の仕分けも終了してしまった。

【お昼】

- ・お昼は各自でとり、雨なのでここで本日の作業を終了した。

（記録：佐々木利江）





第39回 『雑木林の落ち葉かき』

と き：2012年1月28日（土） 9:30 - 16:00

と ころ：谷戸の雑木林

天 気：晴れのち曇り

参加者：磯、霧生、久保、佐々木利江、坂本、高田夫妻、松本洋子、丸山 計9名

【午前・午後】

- ・ 終日、雑木林の落ち葉かきをする。

【お昼】

- ・ 各自でとる。
- ・ 磯さんが残りのそば粉でそばがきを野外料理で実演。しょうゆとわさび刻みネギにて頂いた。

（記録：佐々木利江）





第40回 『下草刈り、落ち葉かき』

と き：2012年2月4日（土） 9:30 - 16:00

ところ：谷戸の雑木林

天 気：晴

参加者：磯、加藤、霧生、久保、坂本、佐々木利江・優聖（午後）、高田直子、高橋、藤田、松下、丸山 計12名（子ども1名含む）

■午前

- ・空気は冷たいが、小春日和のやさしい日差し。
- ・乾いた枯葉がひなたの匂いを醸している。とても気持ちいい。
- ・谷っ戸ん田広場上の雑木林をていねいに下草刈りし、倒木の片付け、落ち葉かきをする。
- ・落ち葉がどんどん集まる。うず高く、というよりかドーンとした山ができあがる。
- ・石田さんによるとドーンとでかい山はNGで、小山をいくつもつくるのがいいみたい。
- ・今日は子供がいない（佐々木さんが来たのは午後）。落ち葉の山にジャンプするとすごく面白いのね。
- ・11時ぐらいに休憩。藤田さん、松下さん、高橋さんからおみやげの差し入れがある。
- ・谷戸ファンクラブ設置のログテーブルに、おいしそうなお菓子とフルーツが沢山。来てよかったなー。

■お昼

- ・各自コンビニなどでお弁当を調達してお昼。
- ・農作業とはあまり関係ないですが、お昼時間のコーヒーの試飲のことを少し。
- ・高橋さんがタイみやげにコーヒーの生豆を持ってきてくれた。
- ・3年前に植林したコーヒーの木から今年初めて採取できた豆だとのこと。
- ・更に高橋さんご自身が果肉を外し、洗浄し、乾燥させたオールハンドメイド by 高橋の生豆。
- ・今日はこいつをここでローストして試飲することになっていたのだった。
- ・磯がローストさせていただきました。それをみんなで試飲。おいしかったです。
- ・磯のテイスティングレポートは次の通り。
フルーツのような甘い香り、味わいは酸味少、甘味強、苦味中。
ナッツを思わせる野趣的な個性があり、飲む人によって好き嫌いがあると思います。
濃いめに煎れるのがよい豆だと思いました。エスプレッソやラテで飲むのが良さそうです。
来年もまた試飲したいです。:-)

■午後

- ・コーヒーの後片付けなどで午後作業のスタートはちょっと遅め。14:00 ぐらい。
- ・基本的には午前中と同じ作業を黙々とこなす。
- ・年数がたつてすかさずになった倒木は大きさのわりに軽い。
- ・優生は、このハリボテみたいな倒木をよっこいしょと運ぶのが気に入ったみたいだ。
- ・みんなから「すごいねー」と声を掛けられるからかな。
- ・その調子。男子はおだてりや木を運ぶぐらいの愛敬があっていいと思うぞ。
- ・機材（刈払機2台、熊手6本、落ち葉運び用メッシュシート2枚、他）を片付けて、16時に作業終了。

（記録：磯 直行）



第41回 『総会、下草刈りと落ち葉かき』

と き：2012年2月11日（土・祝日） 9:30 - 16:00

ところ：作業小屋、雑木林尾根

天 気：晴れ

参加者：石田・レイ・ヒデ、磯、梅下早苗・日菜子・浩太郎・裕二郎（14:30迄）、加藤、霧生、久保、坂本、佐々木利江、高田裕司・直子、高橋、松本純
横浜市役所 ヤマモト、福德（15:00迄） 計19名（子ども5名含む）

【午前】10:00~12:30

- ・てつさんの作業小屋で「な～に谷っ戸ん田の会 総会」。
- ・詳細は総会メモ参照。
- ・途中差し入れあり。松本純さんより中国のお土産、霧生さんよりクッキー。

【昼休み】

- ・な～に谷っ戸ん田に移動し昼食。
- ・高田より、福島県矢祭町の試作品の試食とアンケート調査あり。
（生姜シロップ、生姜ジャム、ゆずジャム、ドライキーウイ）

【午後】14:10 ごろから雑木林の落ち葉かきを開始

- ・谷っ戸ん田向いの雑木林を刈払機で下草刈り。刈った竹は、シートで田んぼに運んだ。
- ・落ち葉については向かいの斜面分を集め、これもシートで運んだ。向いの斜面は、ほぼきれいになる。
- ・用意したもの：刈払機2台、熊手6、緑色のシート2枚

【その他】

コウの歯が抜けた。そしてジロウが・・・・・・・・

（記録：高田 裕司）





第42回 『落ち葉かき、大豆選別、竹林整備』

と き：2012年2月18日（土） 9:30 - 16:00

ところ：谷っ戸ん田の雑木林、作業小屋、竹林

天 気：晴れ

参加者：石田、磯、霧生、久保、坂本、佐々木夫妻・優聖（夫子は午前）、高田夫妻、藤田（午前）、松本洋子 計12名（子ども1名含む）

【午前】

- ・ 集合時には、すでに園主と近隣の農家の方達が雑木林の階段周辺の下草刈りを始めており、チェーンソーで伐採作業等もしていた。一部はホダ木として使うのかもしれない。
- ・ 落ち葉を片付けた土のみえるエリアに集まるのか、広場周辺の雑木林にはシジュウカラやメジロ等小鳥の姿が多く見られた。
- ・ 広場の右上あたりを中心に刈払い機2台で下草を刈り、熊手でかき集めた笹や落ち葉等をシートで田んぼに集める作業をした。
- ・ 作業小屋にて来年の種まき用の大豆（白・黒各3キロ程度）の選別作業をすませた4人も11時半頃には落ち葉かきに合流。改めて大豆をみると、白は生育の悪いもののがかなり混じっている印象だった。

【昼休み】

- ・ 各自お弁当など。
- ・ 高田さんが、ダッチオーブンで焼林檎を作りふるまってくくださった。林檎の甘い香りを満喫しました。美味しかったです。

【午後】

- ・ 全員で竹林に移動。荒れていた斜面全体を刈り払い機で一掃し、刈った笹等をくままで小道周辺におろしていった。途中、何本かタラの木を見つけたが、その芽はまだ小さく硬い。
- ・ 斜面がきれいになったので、昨年度に伐採して腐食するのを待っていた竹をおろしやすくなった。やっとチップーの出番がくる。
- ・ カマをもっていかなかったので斜面に生えていたツル状の植物を充分に刈り取ることができていないように思う。次回以降、取り組みたいところだ。

【その他】

- ・ 翌週は味噌作りの予定。金曜から大豆を水に浸しておく必要があり、白大豆（約11キロと2010年度の残り（？）約4.5キロ）を参加者が手分けして持ち帰り。当日、浸したものを持ち寄ることとした。
- ・ 17時から園主宅を訪問して話し合いをして下さることになった石田さん、高田夫妻、久保さんを残し、16時頃一旦解散。話し合いの結果は、次回伺うことになるだろう。

（記録：霧生）





第43回 『話し合い、味噌仕込み』

と き：2012年2月25日（土） 8:45 - 15:30

ところ：テツさん納屋

天 気：雨のちくもり

参加者：石田・ヒデ、磯、梅下早苗・日菜子・浩太郎・裕二郎、加藤、霧生、久保、坂本、
佐々木利江・優聖、佐々木眞佐子・美紗、高田直子、高橋、松本、松下、柴田
計 20名（子ども6名含む）

【午前】

- ・集合時間を早めたが、雨が強く降っており、火を燃やすのは厳しい状況。松下さん持参のシートでタープを設置。四方をロープで吊り支柱で支える。梅下家の「かんたんタープ」をその手前に設置。
- ・できるだけ濡れていない薪を石田カーで運搬。かまど設置。かまの底にクレンザー（急遽購入）を塗り、午前10時点火。それぞれが前夜から水に浸して持参した大豆11kg投入。様子を見る。吹きこぼれてきたので、あわをすくったり水を加えたりしてゆっくり大豆を煮る。高田さんが塩の購入に。全員が揃ったところで、前週の「てつさんとの話し合い」を受けて、来年度の活動について話し合った。

〈話し合いの内容〉10時45分～12時15分

○高田さんの記録をもとに来年度の活動について意見交換。主な意見は以下の通り。

- ・出席連絡を徹底し、参加予定表と作業予定を「見える化」するよう事務局で工夫する。
- ・もっと参加者を増やして、広がった活動に対応できるようにしていきたい。
- ・てつさんの期待に応えられるようにやっていきたい。作業のすりあわせが大事では。
- ・もっとてつさんにいろいろ教えてもらいたいしてつさんと一緒に作業したい。
- ・てつさんの意向を汲んで活動する方向でやりたい。
- ・子どもに貴重な田んぼ体験をさせることができたことが良かった。なかなか参加できず心苦しい。→できるときにがんばれば良いし、多様な参加形態もあって良いのでは、子どもがいると楽しいとの声もあった。
- ・どこまでできるかわからないが、自主的にやってみたいという意見もあった。
- ・今後の信頼回復のためにも本腰を入れて活動したい（遊びも本気で）との決意表明もあった。
- ・「谷っ戸ん田の人たちにも成長してほしいし、自分も成長したい」とのてつさんの話に驚いたとの感想もあった。

○詳しくは高田さんの記録を参照のこと。ていねいに記録していただき感謝です。出席者全員がそれぞれの思いを伝え合い、約1時間半の話し合いを終えた。この間、大豆は静かにお行儀良く煮えていたようで、ふっくらと煮上がっていた。話し合いの間に雨がようやく上がり、空が明るくなる。

【昼食】

各自、昼食。

【午後】

- ・味噌の仕込みを開始。原料は白大豆11kg・糶12kg・塩4.8kg。煮た大豆・糶・塩を二つに分け、焼酎で消毒した20L樽でまず糶をほぐして塩を混ぜ、組み立てたミンチの器械で大豆をつぶしてその樽でよく混ぜ合わせる。子どもたちも楽しそうに作業に参加する。
- ・味噌玉を作り、消毒した30L樽に思いっきりたたきつける。空気が入らないように注意が必要。樽に七・八分目ほどで一回目の仕込みが終了。上にビニールをかぶせ、昨年使用した塩をその上に載せる。美味しい味噌になるよう、願いを込める。
- ・二回目はメンバーを交替して行う。柴田さんの記念の仕込みとなる。一回目と同様の手順。あわせて味噌30L樽二つの仕込みが完了。後かたづけを行う。午後3時にほぼ終わる。
- ・てつさんが見えたので、ハウスのほうれん草を分けていただく。お代はいらないとのこと。感謝。

（記録：加藤 彰）



第44回 『味噌仕込み第二弾、竹林整備』

と き：2012年3月3日（土） 9:30 - 16:30

ところ：テツさん納屋

天 気：晴れのち曇り

参加者：石田・ヒデ、磯（AM）、梅下早苗・日菜子・浩太郎・裕二郎、加藤、霧生、久保、坂本（AM）、
佐々木利江・優聖（PM）、高田裕司・直子、福德（AM）、藤田、松本純・洋子
計19名（子ども5名含む）

【午前】

- ・ドラム缶釜戸を設置。かまの底にクレンザーを塗り、薪に点火し、それぞれが前夜から水に浸して持参した黒豆12kgを10時に投入。加藤・藤田・梅下で釜戸の担当をする。
煮ていると煮汁が紫色になり神秘的？悪魔的？な感じでした。あくを丁寧にすくいとりふっくら煮あがりました。
- ・買い物から戻った洋子さん・直子さんがアメ（豆の煮汁）でお味噌汁を作ってくれました。
買い物は塩と樽の蓋を探しに。蓋は単品では買えないのでビニールで代用になりました。
具は谷っ戸ん田の大根・白菜・味噌・てつさんのほうれん草・竹林よりキノコ・油揚げです。
煮汁を使うのは初めての体験でしたが、栄養たっぷりの健康お味噌汁で美味しかったです。
無駄になるものは何もないんですね！
- ・入れ忘れの豆があり、ちょっとハプニングがありましたが、お昼を食べ終わるころにはすっかり煮あがりました。
- ・石田さんと北部農政の福德さんで地権者である鈴木さんのところに、ご挨拶に行かれました。
- ・味噌仕込み以外のメンバー（石田、磯、霧生、久保、坂本、高田裕司、福德、松本純）で、テツさんから依頼を受けた直売所裏の竹林整備を行う。刈払機2台動員。状況としては、前以ってテツさんが篠竹等を刈り倒してあったので、それを指定された2か所に集める作業が主であった。また、篠竹を刈った跡の残りが長めに残っていたので、片付け終わった場所の残篠竹を、刈払機で再度刈る作業も並行して行う。

【昼食】

各自、昼食。

【午後】

- ・昼食休憩後、味噌の仕込みを開始。原料は黒大豆12kg・糶12kg・塩4.8kg。
大きい寸胴鍋でまとめて作ろうとしたが、一度には無理なので20L樽も2つ使用する。
20Lの樽で麴と塩を半分ずつ混ぜて、寸胴鍋にそれぞれ同量の塩切り麴をいれる。
セットしたミンチ機で豆をミンチしながら3つの鍋・樽に分けて混ぜ合わせる。
最後に寸胴鍋に全て入れ、ひとまとめにしてアメを混ぜ合わせる。
- ・味噌玉を作り、消毒した30L樽2つに思いっきりたたきつける。空気が入らないように注意。2つの樽に八分目ほどで仕込みが終了。上にビニールをかぶせ、昨年使用した塩をその上に載せる。きれいな色の仕込み味噌が出来上がりました。発酵すると茶色になっていくそうですが、どんな仕上がりになるのか楽しみです。美味しくなりますように！！
- ・3時半頃には作業が終了し後片付けをする。
- ・来年度へ向けて反省点
なるべく細かく大豆・麴の分量を分けて（例えば10等分など）やった方がやりやすいのでは？
ミンチの機械に大豆と麴を同量入れてまわしてもいいと思う。
などの意見がありましたので来年度の参考にしましょう。

- ・久保、高田裕司、松本純の3名は昼食休憩後、竹林にて午前中の継続作業を行う。久保さんが刈払機作業を行い、高田、松本の2名が倒れた篠竹の片付け作業であったが、午前中とは打って変わって人数も少なく、結構過酷な作業であった。それでも何とか次週の作業がスムーズに行える程度には片付け、味噌仕込み終了にあわせて、竹林整備メンバーも上がる。
- ・作業終了後、皆で残りのお味噌汁をいただく。煮込み時間が増したからか？より美味しくなっていたようです。松本家よりチョコレートの差し入れをいただきました。
- ・テツさんのハウスのほうれん草を今週も分けていただく。テツさんは来られなかったが、電話にてお願いしたところ、家でも食べきれないし、適当に持ってっていいよ！とっていただいたので、有難く頂いた。感謝、感激！ありがとうございました。



(記録：梅下、松本)



第45回 『鉄塔周辺の下草刈り』

と き 2012年3月10日(土) 11:00 - 15:00

ところ 作業小屋から東電鉄塔への裏道

天 気 雨

参加者 石田、久保 合計2名(5年間で最低の人数、しかも作業の前半は久保一人)

7日は奈良(近鉄線大和西大寺)の「魚源」、8日は滋賀(山陽本線守山)の「夕鶴」で飲む。

9日夜7時半過ぎ、谷っ戸ん田の元メンバーもえちゃんは和服姿で京都駅地下街に現れた。さっそく、駅近くの「六角や」へ。しかし、満員。近くのどの飲み屋も満員。金曜夜の駅近くの飲み屋は、予約しないとダメらしい。仕方なく、地下街のポルタへ。お好み焼きを狙ったが、数名が待っている状態。時間がないので、おぼんざい料理の「味彩や」へ入る。



もえちゃんは生ビール2杯。自分は生ビール2杯+焼酎ロックで仕上げる。9時にもえちゃんと別れ、新幹線終電一本前に乗り、新横浜経由で成瀬駅で降りる。すでに、12時前。横殴りに近い雨。京都は7時頃に雨が上がったので、新幹線は雨雲を抜かしてしまったようだ。

翌日も雨。8時にテツさんに電話したものの連絡取れず。ようやく8時半になってテツさんがつかまり相談。予定していた前週の続きの作業(直売所裏の竹林整備)は中止とし、作業小屋から東電鉄塔への裏道の下草刈りに変更。

天気予報では昼前後から雨が上がるとのことだったので、集合を11時とした。ところが、夜の壮行会があるため、欠席メールが続々と・・・結局、久保と石田さんだけの作業となった。しかも、石田さんは谷っ戸ん田に着いて直ぐに私用で出掛けてしまった。久保一人で刈払機を準備し、雨の中、作業小屋裏からの道を黙々と刈り始めた。



やがて、午後1時となり、ランチを済ませた石田さんが合流。今度は二人で黙々と刈る。久保はランチにしようかと考えたが、その時間がもったいなく、2時半までやはり黙々と刈り続けたのだ。刈払機を片付け、前週に続いてネコヤナギを撮影。15時解散。

帰宅しシャワーを浴びて、撮った写真を整理してから、柴田氏の壮行会が開催される青葉台「山田さんち」へバスで向かった。4夜連続の飲み会。最後はカラオケで仕上げた。

(記録: 久保 文雄)



柴田さんを囲んで笑顔いっぱいの谷っ戸ん田メンバー



「山田さんち」は、きちんとしている。
4人分20切れ(1切れはすでに頂いた)。



柴田氏 壮行会 @ 青葉台・山田さんち



第46回 『鉄塔周辺の下草刈りと片付け等』

と き：2012年3月24日（土） 9:30 - 14:00

ところ：作業小屋から東電鉄塔への裏道周辺と作業小屋前のビニールハウス

天 気：雨のち曇り

参加者：石田・ヒデ、磯、梅下早苗・日菜子・浩太郎・裕二郎、加藤、霧生、坂本、高田直子、松本夫妻
計13名（子ども4名含む）

【午前】

- ・ 天気予報は「曇のち晴」。なのに3週連続して雨降る朝。今年度はよく雨にぶつかるね・・・と言いながら作業小屋と鉄塔間のエリアの下草刈りをはじめ。
- ・ 刈り払い機2台で下草をどんどん刈っていき、10日に刈った笹等と一緒にまとめて数箇所の山を作っていた。動き始めれば霧雨程度の雨はあまり気にならない。隊長によれば、この程度の湿気があったほうがまとめた草も発酵しやすいそうだ。
- ・ 休憩後、改めて見回すと獣道のようなエリアもすっきりした雑木林になった。

【昼休み】 ~13:30

- ・ 各自、お弁当等を購入して昼食。
- ・ 雨脚が強くなったので午後の作業はあきらめミーティング。以下のことを確認した。

園主の手伝いの具体的な進め方や堀の内の畑のこと等について

- * 田植え以降、田の草取り作業は半日、5人程度でできるのではないかな。
- * 半日単位で園主の手伝いをする日を予めスケジュールに落とし、事前に園主に伝えられるようにする。例：○月○日 AMor PM 約○人
- * 園主の計画を手伝う形で畑活動は行う。
 - ◇ 会で畑を使わせてもらう形の依頼はしないが、作付けについては以下の希望を伝えて具体的なすりあわせを行う。
 - ◇ 里芋とえびいもは、去年の種芋も使う形で一緒に作らせてほしい。
 - ◇ じゃがいもも作って収穫できると嬉しい。
 - ◇ 味噌作りは継続したいので、種用に保管している大豆（白黒各約3kg）を植えて収穫したものを使いたい。
- * 田んぼ作業同様、天候等で土曜の援農活動が出来ない場合は、出来る範囲で日曜へ振り替える。
- * 会としては堀の内の畑での活動は行わない。
 - ◇ 別途、大場さんの畑作業のお手伝いと位置付けて、有志が参加する形をとる。この件に関する情報発信は石田さんが窓口。平日に動ける方との相談となるか？
 - ◇ 畑は来週片付けて大場さんにお返りする。

【午後】

- ・ 雨が激しく降っていた。14時頃、一旦解散。
- ・ もう少し働きたい有志数人（磯、梅下、石田、坂本、高田、霧生）が、小屋前ビニールハウス内の小松菜畑の草取りをした。
- ・ 取った雑草をハウス裏に捨てる時、満開の梅林を間近に観ることができた。薄紅色と白い花がきれい。大松菜もあちこちで元気に黄色の菜の花を咲かせている。こちらは美味しそうという声が…。ちょっと得した気分になる。いつのまにか雨は止み、15時頃には晴れ間が見えていた。
- ・ 希望者が堀の内の畑に残っている大根や白菜をいただいて帰った。

（記録：霧生）



番外編 小野路ツアー

と き : 2012年3月18日(日) 9:00 - 14:30

と ころ : 集合&解散 : 野津田公園・東駐車場

小野路 万松寺谷戸 ⇒ 小野路城址 ⇒ 歴史環境保全事務所 ⇒
こうせん塚 ⇒ 五反田谷戸 ⇒ 奈良ばい

野津田公園散策

天 気 : 曇り、時々小雨

参加者 : 久保、佐々木利江、高橋、高田裕司、松本夫妻 計6名



第47回 『直売所裏の竹林整備、話し合い』

と き：2012年3月31日（土） 9:30 - 14:00

ところ：直売所裏山、作業小屋

天 気：曇り時々雨と強風

参加者：石田・ヒデ、磯、梅下早苗・日菜子・浩太郎・裕二郎、久保、坂本、高田裕司・直子、高橋（AM）、藤田（AM）、松下、松本洋子 計15名（子ども4名含む）

【午前】

- ・ 風は強いが、午前中はなんとか持ちそうだということで急ぎ直売所裏山に移動する。
- ・ 高田家は谷っ戸ん田に来る途中堀の内に寄り、畑の現況確認、白菜の菜の花が食べごろ、絶品らしい。
- ・ 現場は、既にシノダケを刈り払いしているの、見通しすっきり、ただ、刈り取ったシノダケの株が鋭く注意して行動した。
- ・ 作業の中心は前回刈り取った時にまとめられなかったシノダケの片付け。
- ・ 中途半端に倒されている竹を伐採して、枝を伐り、一箇所にもとめる。
- ・ 刈払い機で2度目の刈払い。
- ・ 竹の枝を切るのに、「丸太による上側からの打ち払い方式」を藤田氏が披露、高田ユウが鉄パイプを代用し注目を浴びる。ナオの心配げな（頼もしげな）視線も浴びていた。
- ・ 12時、雨が降ってきたので終了。当エリアの作業は完了でよいのではないかと思う。あとは筍を待つのみ。
- ・ 道具：刈払い機(2台)、のこぎり、なた、鎌、鉄パイプ、鍬(用意したが、筍の姿見えず出番なし)

【昼休み】

- ・ 作業小屋で各自コンビニ弁当

【午後】

- ・ 来年度の作業などについて意見交換。その日の作業リーダーと記録係の年間計画を決めて、回していくことになった。

（記録：高橋、久保）







谷戸という場所は気持ちがいい。
仲間との農作業はたのしい。
本格的な農作業はかっこいい。
自らかかわった作物はおいしい。
自給するって気分がいい。
な〜に谷っ戸ん田はいーことやっとなだ。